WASON
HQ
1104
J74

明治廿六年四月八日發兌

女學雜誌

第三百四十一號

女學雜誌社

CORNELL UNIVERSITY
Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

●時事
日本婦人矯風會○女子夏季學校
●隨感
料理店にて費やすの深意(山下石翁)
●兒藍
林のぬし(上)若松しづ子
●小說
春風裡(トオストイ作)不知庵主人譯
●家政
家内政治の法度(珍膳も毎日向へば甘からず。分相應。分に安んずる事。止を得ずして人に金を貸す時は寧ろ之れを與へよ。自から家事に長けたりと爲る勿れ)
●葉の色
はしがき○坂垣伯の幼時○中江篤介君の幼時
●理學
極大と極小(けい子)
●文藝
綸端の談(上)
●雜錄
雨中の花(韻文)しらぬい○今昔ものがたり(備前烈公の德量○名將の識鑑)
●通信
各地通信員の特報數件
●女報
數十件
●附錄
新撰百人一首

故小橋勝之助君追弔義捐金募集

信仰に倚り、獻身の生涯を送りたる人として、吾等は深く、故小橋勝之助君を追崇す。若し、身外に持てる者悉皆を喜捨し、只管ら神の國と其義とを求め一襲の衣、一品の食も、悉な與へらるゝ者をもて支持せし人、何處にありやと云はゞ、吾等は君を推す。若し周密着實なる經倫を盡するに一々祈禱を以てし、日々夜々の事業一些も信仰の結果ならざるなき禱りの人、何處にありやと云はゞ、吾等は亦君を推す。吾等は深く君を知り、亦君を敬重したり。一朝君忽然として逝きぬ。其至誠長久に盡きず、志を繼ぎて博愛社の事業を成すもの、其人ありと信ずと雖ども、君が長眠は、該社に於ける非常の損失たるとを知る也。吾等は、君を推重し、亦君が遺業の彌よ發達せんとを希圖し、君を失ひたる博愛社の損失を幾分にても補足せんとを望みて、茲に君を追弔するが爲めの義捐金募集の事を發起す。世上同志の友ありて、吾等が微衷を贊同し、此回幾干の義捐を寄するものあらば、幸ひなり。

義捐金は女學雜誌社内孤兒之友にて取集め、博愛社小橋氏遺族に送輸すべし。

明治二十六年四月

植村正久　湯谷磋一郎
巖本善治　藤井米八郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第八拾卷　第三百四十一號
（明治二十六年四月八日發兌）

時事

○日本婦人矯風會

婦人矯風會、東京に出で來てより、地方に之に類するもの少なからず起り、又、禁酒を主義とせる、婦人の會合、所々に結成せられたれば、此等を聯合せしめて、一の同盟會となし、遠くは万國共通の世界婦人禁酒會と氣脈を通じ、近くは、國内同旨義の姉妹相ともに一つに合せんとの主意にて、玆に日本婦人矯風會なるもの創立せられたり。此會の目的とする所を聞けば、

主として、禁酒禁煙の事業を擴張し、社會の風俗道德教育衛生傳道其他一般の弊害を矯め社會全般の幸福を增進するにあり

と。而して、本會内に、組織、教育、風俗、法律、衛生、文書の六課を置き、課每に一名乃至二名の課員を備ふとなり。

同主義の婦人會の數追々に增加し來る今日に際しては、かゝる計畫のあらんは、頗ぶる當を得たりと思るれ。因りては、之と共に東京婦人矯風會の如きものを解散し、可成く一部分の事業（例せば、禁酒、廢娼、傳道、平和、動物保護と云ふとの如き）を全會の目的とし、志を専熱にし、方向を一途にして、深く厚く運動するとに心掛くべき時世とはなれり。世評の紛々たるは、古より之れあり、誰か、婦人矯風會に一過失あらざりしとせんや。然れども、明治十九年末、日本の矯風事業に、至大の感化を與へたるもの、及び、日本女子の勢力の爲めに、明白なる證票を示したるものを得んと問ふ人あらんに、婦人矯風會を以て其一なりとせざるものあらば、其は眼なきの人なりとす。左れど、今日は最早や「矯風」と云へる、漠然たる空大なる名目の下に集合せざる可らざるの時世にあらず。開けざる土地に、万屋あり、初めは、學者皆な百科を兼修するが如く、矯風會と云ふが如き万能業の組織は、たゞ初代にのみ行なはるべきものとす。左れば今日、初めて基督教主義の婦人會を設立する地方に於ては、今日と雖ども、尚ほ第一に矯風會を開かんと其故なきにあらずとするも、東京其他從來

久しく矯風會を設置したらんが如き土地に於ては、もはや之を解散するも既に可なるの時機に達したるなるべし。思ふに今は當に會員各自の長所に隨がひて勞を分ち、夫々の專門に別れて、熱切なる運動を奏するヿを爲すべきの時なり。此時に當りて、主府に、日本婦人矯風會なるもの起る、實に機運の當を得たるものと云ふべし。矯風の二字は、今后まさに斯る主旨の大聯合の上に與ふべきものとなれり。新なる、日本婦人矯風會よ。汝は、其名の上に幾多の深き由來あるヿを記臆し、今后長年の間、其先人の功蹟を念すべし。而して、現に存する東京婦人矯風會の如きは、當に速やかに、解散し、各部互に獨立し、其專門相對して、堂々深熱の運動を奏すべき也。

○女子夏季學校

明治廿二年以來、夏季學校と云ふもの、催ふされたり。山青く、水白き邊、欝として木影すゞしきリシアムに於て、東西特志の俊才を集めて教授するヿなれば、開校の時日長しとせず、講演の度數亦多しとせざれど、來會すべき學生が上に與ふる感化驚ろく可きものあり。近き四五年間は、基督教社會大勢の變遷を、大率ね此所にて兆し、毎歳夏季の此集りに於て、機一變の發端を畫したるヿ、夙に識者の注意する所となれり。

夏季學校の効益斯の如し。而して、其授業は、男女同性の上に施こして、厚薄あるまじきものなりと雖ど、自然の形況現に、左るヿを得ずして、實際、男生の爲にのみするの傾向あり、頗ぶる之に憾みたるもの少なしとせず。且は、たとひ男女の双方に對して、公平なる計らひを爲さんとするも、勢ほひ然るヿを得ざるの事情も無きにあらず。此等の理由をもて、別に女生の爲に夏季學校を催ふすべしと云ふの議、早くより世に出でたり。

本年に入りて、此議いよ／＼勢力を得、去月二十日、遂に、京濱間の基督教主義各女學校より二名乃至三名の委員を派出し、東京須寄屋橋會堂に集會して、彌よ本年夏に於て之を開設すべきヿに議決し、直ちに委員六名を擧て、其法案の調査を托したり。

六名の委員が調査久しからずして成り、更に本月三日、第二の惣會を開きて、議決したる條々、大畧左の如しと云ふ、

○○場所　横濱山手百七十八番フエリス女學校內
○○開校　八月卅一日開校式執行、九月七日まで
○○講演　宗教上、教育上、文學上に渉り、毎日午前宗教上の講演に於ては、日本人、西洋人各一名宛左の主旨に從ひて辨ず

第一日　聖別献身及び祈禱の勢力に付て
第二日　靈性上の生涯及發達に付て
第三日　安息日及び聖經研究に付て
第四日　基督教的熱心及事業に付て
第五日　基督教的至愛に付て

毎夜の集會には、辨士一名づゝ左の主旨に從ひて講演し右終て后ち該主旨に付き各人の自由談話を許す

第一日　女子教育に對する諸氏の意見に付て
第二日　女子教育の眞法に付て
第三日　清潔文學の擴張に付て
第四日　音樂及び美術の教育に付て
第五日　ホームに關することに付て

一週間內、五日は朝夕右の如くし、別に毎早朝有志者の祈禱會を開き、午后特に演說會、協議會、文學會等を開く。又一日は、聖安息日にして共に聖餐式に列し、一日は運動社交の日に宛つ。

○○月謝　一週在校者は二十錢。一回聽講者は五錢。
○○委員　同盟せる各女學校に一人の委員を置き、別に常置委員として、日本人七名西洋人三名を定め、事務を托す。

抑も創業に完きを望むは、不當の所望なるべし。左れど、此最初の女子夏季學校に於て、女生間の靈況を一進せしめ、同志女學校の氣脈を貫通せしめ、近年やゝ衰方に傾むける女學の大勢をして、大に挽回せしむるに至らんとは、吾黨が、切りに之に向ふて熱望する所ろなりとす。

隨感

○料理店にて費やすの深意

山下石翁

或る經濟家の說に、凡そ食事は、家外に於てするほど損なるはあらず、如何なる馳走といへども、之を家の內にて調理するときは、費え三が一にて辨ずることを得べし。故ゆえに、家人を伴なひて散步したる時など、たとひ保養爲樂のためなりとも、家に携さえ歸りて、うちくつろぎ、樂しく味はふべし、是れ經濟の爲にも、樂しみの爲にも、好かるべしと言へり。

此說、一應理りあるに似たれど、此は男子の言ふことにして、もと女子の心衷を知らざるより來れり。細君の安樂は、其人が知らざる所ろに存し、下婢の苦痛は、主人が尤とも樂しむの時に多きことを考ふるものは、直ちに此說の妄を覺らん。配膳も鹽梅も一々掛念するに及ばず、食后毫しも取片付の心配なきなど、夫人に取りて言ふ可らざる氣休なり。故に、其人は、些々たる入目の事に顧みず、折々は夫人を伴なひ、料理店に入りて、自己が知らぬ一種の樂しみを之に呈すべし。

兒藍

林のぬし（上）

若松しづ子

林の主なんて、そんなものがあらうか、あればどんなものだらうかしらと仰るでせう。私がお話しませうといふのは決して蛇や獣の類でない、さりとて天狗でも仙人でもない一種異様なものです。昔し〳〵又其昔し、あなた方のおばあさまのまた其おばあさまが孫よといつて頭を撫られる時分でも、有ましたらうか、人の評判には山や林には是を支配する主があつて、深林の地の下に廣大なる宮殿を搆へ、折々人の眼に觸ることも有つたさうです。木樵や山賤はよくそれを呑込んで居て木を一本伐れば、きつと其側へ少し斗りの槇を割て置くが諦りで、これは地の下の御殿で用ゐる薪木になるのださうでした。

山林の主は手に銀の斧を持つて居て、人間が伐つて差支のない木には一々目印を附けて行くが習慣で、宮殿には金銀財寶を山の如くに貯へて居ると言ひ傳へ升た。地の上に現われて人間に見られることは極く稀でしたが、其折には白髪の老人となつて、腰に楓の蝶の様な種を挾んで殊さらそれと知らせるのださうでした。

昔だつてそんなものが居たらうか、それは眞では有るまいと仰つしやり升か？萬々一これがたゞのつくり話しで、さういふものがなかつたとしても此お話しの邪魔にはなりませんから、どうぞ辛抱してお聞なさつて下さい。

いつの頃でしたか、ある深い森の畔りにさゝやかな木樵の住居があり升て、ある夕のことで、主人の木樵はまだ仕事より歸らぬ時分、年若な女房が赤ん坊に乳を飲ませつゝ爐のまへに坐つて居り升た。今しがたくべた蘇朶が賑やかにパチ〳〵と燃へて居る間此女は暮らし向きのことなどいろ〳〵と考へ、つまり金持になつたらどんなに好からうと思つて居り升た。

此日は晝の中は上天氣でしたが夕方より浸々と寒むくなり升たから、夫を待つに付け爐の火に折々〳〵して燃へ上る火をあとでなく眺て居る間、此火の赤い處がみんな金銀だつたら大したものだらう、マアさうとして其お金で何を一番に買

はうなどとりとめもなき妄想を廻らして居り升た。用もしなひ、膳立をして夫の歸るを待つ時などには、一人ツクチンとして居てこの樣なつまらぬ考へをするとが此女にはまゝあるので、此晩もどふやら夫の歸りが遲い樣におもひ、ほんに遲いことゝ思ひ始めた時分トン〳〵と戶をたゝく人があるので、急いで開いて見ると、一人の老人がはいつて來升た、

おかみさん、お氣の毒だが、此おやぢに一とあたりさせて下さいませんか？

といひ升た。女房は心よげに席を讓つて、

サア〳〵、こつちへ來て、ゆつくらおあたんなさい。

といひ升た、それで老人は爐の椽へ寄り、手を伸べて溫まつて居り升た。女房は老人が脊に頭陀袋樣のものを脊負つて居る處から考へて、なんでも隣村の市あたりへ買物に行つた歸りの人であらうと一人呑込んで、

おぢいさん嘸草臥れなすつたらう、今年の寒さはまた格別ですからね、

ナニ、わたしらはさうもおもひません、いつの年も同じ樣だから、それはさうと、こゝいらには立派な杉の木があり升な、さうして後ろの森もすばら敷もんだネ、

ほんとうにさうですよ、わたしたちにはなぼのと立派に見へる筈ですわ、そのお蔭で親子三人おまんまを食べてるんですもの、うちの主は年中此森の木を伐るんです。

それにあの中の沼も隨分大したものだネ、あの鶺鴒が菱の葉の上をヒョイ〳〵眺んで步るくのを見たが、よつぽど可愛いゝもんだネ、

といひながら爐の灰の中へ下ろした鍋を底意ありげに眺めた樣子を女房が早くも見てとり、田舍ものゝ心易げに、

マア、おまへさんもお腹がすいておいでなさるんだらう、何はなくとも、うちの人が歸つたらわたしらと、此けんちんで一膳たべておいでなさい、遠慮は入ませんぜ、今に月も出るからゆつくりして行なすつたらよからう。

とて赤兒を下へ寐かし、客の膳一ツ別に拵らへに取かゝり升た。老人はかふ聞いて少し笑ましげにうなづき、

そんなら、御馳走になつて行ませうか、

といひ升た。さてけんちんを再び火へかけてクツ〳〵と煮たたせ、香の物も出し、鍋を下ろして鍵へ鐵瓶を引かけ、それ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

がたぎつてもまだ主人の歸る樣子は有ませんかつた。スルト老人が何氣なく、

ハテナ、甚八さんがこんなに遲い筈はないが、丸太を挽塲へでも持つて行つてるのかも知れんナ。

オヤ甚八、そんなら、おまへさんはうちの人を知つておいでだナ、なんともおいひなさらないもんだから、わたしはマアさうとは知らないでさ、

といつて弱〳〵しく優しさうな老人が一層氣の毒になり升た

ナニナ、時々こゝいら〳〵も來たことがあるんです(といひながら少し間のわるさうに)だからこゝの御亭主も見知つて居るのさ、こゝらの木樵であの位手の利た人はない、林中ヺン〳〵鳴り渡るからナ。

夫を賞められて、女房の心に、なにより嬉しく、

本統にうちに居たつてあんな器用な間に合ふ人は有ませんよ…………

といふ處へ戸の側に足音がして、此家の主人が歸つて來升た

女房はいそ〳〵立つて、盥に湯をとりながら、

一寸、おまへさんあの方がさつきお出なすつてナ、今一處におまんまを上る積りで居る處だよ。早く足を洗つておあがんなさい。

木樵は叮嚀に、

これはよくおいでなされ升た。かゝあ、おらあ、も腹がへつたから直ぐとやらうぜ、

女房は椀に例のけんちんを盛り、香の物を刖け、茶を入れなどして共に膳につき升たが、女房はまめ〳〵敷何かと老人の世話をやき、深切にもてなし升た。亭主は何故か老人の樣子振りに氣をとめ、何とも口を開らきませんかつた。女房は手持なさに、一人でアクセクし、

うちは此近處の御樣子でもないが、今夜はどこへお泊りなさるんです?、

老人はホツト嘆息して、據なくば野宿する積りといひ升た。

女房はいよ〳〵氣の毒でたまらず、

そんなとなさらずともよさゝうなものだナ、おまへさんの年で野宿なんぞつて、それだから節〳〵が痛くなるんですよ。

いひながら主人に相談かけん計りに其顔を覗き込み升た。主

人は一層慇懃に、

かゝわがあなたをお泊め申度といふ處でせう、御覧の通りむさい處ですが、奥の六疊を拂つたらどふかかふか一夜さ位おとめ申ともなりませうかと思ひ升ナ。

おまへさんどふかかふかなんてそんな餘計なとは言はずとも好じや有ませんか、奥の坐敷なにかは、いつなん時どなたがおいでなすつたつて困る樣なこたあして有ませんよ。

主人はクッ〳〵笑ひ出し、老人も頻りに何かニコ〳〵して居り升た。それで女房に

さうして下されば何より有難ひナ。

といひ升た、それで女房は夜の者を出しなどして客を伏戸に案内し、さて伏間をたて切つて夫婦切りになると、女房は突然

おまへさんなんですナ、あんなに馬鹿丁寧に物をいつて、あんなおぢいさんがうちみたいな奇麗な坐敷へ寐るなんて滅多なこつちや有升まいよ、それにいやむさいだの、いやどふかこふかなんていふんですもの、ぢれつたくつてさ。

主人は呆れた顔して獨りクッ〳〵笑つて居升た。女房は燈を吹消しながら

おまへさん何がおかしいんです、

おまへも餘つぽどのんきなもんだナ、あの客人の腰につけて居た青いものを見なかつたのか、あれがあるからにやア此林のぬしと定つたもんだ、わざとあんな氣の毒さうなぢいさんになつて見せるんだ、

エー本とうかへ、それは大變な話しだ、ア、氣味のわるい、あかりを消さなければよかつたに。

主人はます〳〵大笑ひに笑つて居升た。女房はすつかり眞面目になつて、

おまへさんよく笑つて居られ升ナ、あんな恐ろしいものが奥に寐て居るつていふのに。

それにまた此人はすばらしい御殿に住つて居るといふ人に對つてヤレけんちんをモットかへろなんて、それも好がなんのかんのつてうちの自慢をするのだものな、王さまか天子さまほど豪勢な人をとつゝかまへてあの氣の毒がり樣といふものはハッハッハ

と頻に腹を抱へ、ねだもゆるぐほど笑つて居り升た。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

アレ、後生だから笑ふのはよしにしておくんなさいよ、あしたおまへさんの好な山の諸のとろゝをおいしく拵らへて上るからさ、笑つてる處を聞かれたらどふおしなさる？

ナニ、來たつて何もおつかないとは有りやしないのさ、しるしのしてない木は伐つたこたあなし、お年貢はいつもかかさず奇麗に切つて置いて來るし、だから何も恐ろしひとはないよ。それにおまへ聞いたとがあるだらう、泊つて行く處へはいつでもたんまりした泊り賃を置いて行くさうだぜ。

泊り賃なんぞはどふでも好いよ、うちの赤ん坊でも欲くつて來たんじやあるまいチ、いくらお金を出すつていつても赤ん坊なんか遣るもんじやないから。

女房がやかましく喋べり立ればしやべり立るほど、主人は笑ひ升て、とふ／＼管わず高鼾で寐入つて仕舞ひ升た。併し女房は中／＼眠る處でなく、段／＼考へて居る中に恐氣が自然漸らいで、泊つた報には何を置いて行だらうなど丶考へ始め升た。さてかうする中自分は寐入つたとも知らず寐入りついたと見へて、夜があけて、いつの間にか起出た夫の聲で、

およしや、早く起ないか、早く起て夕部の人が置いていつたものを見ろや。

といひ升た。

一號の紙數多からねば、思ふ限りを一時に悉な載せつくす能はず。左れば

時論　叩扉　史傳　文しらべ　摘要
問答　批評　田家のとよみ

の欄など、皆な此號に欠きたり。其他尚ほ新趣向もありといへど、未だ公けにせざるうちは、先づ預告するとをせじ。讀む人、單に一號を取りて之を全豹となし玉ふとなかれ。少くとも、二三號を一つにして評し玉へと祈る。

くさ／＼の問を寄せ玉へと促がす。出來べき限り答參らすべし。また、問を掲げて、廣く世に質すの便りをもなさん。又、此紙上にて互ひに論を討はし意を交ゆるの媒ともならん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小說

春風裡

トオストイ。作
不知庵主人。譯

其一

秋の初めに亡くなられた母君の喪中、マカアとソオニヤと妾の三人は故郷で一緒に冬季を過した。マカアは亡母の古い朋友で、妾の內教師となりて久しい間馴染ンだ者で、ソオニヤとは自分の妹である。

故郷のポコロオウスキイで暮した冬は、悽婉慘憺として寒氣一と通りならず、風は窓外に高く吹雪を飛ばし、窓板は數ヶ日氷りつき、步行は勿論馬行も中々協はず、客來ッて扉を叩く事なく、偶々來る者があッても、面白い慰みになる談話を齎さないで、悲しい顏をして、トント寐てゐる人を起さじと懸念する如く呼吸を潜め、唯嘆息をしては黑衣を纏ふソオニヤと自分を見て泣き、恰も死神が此室內に廻蕩して、其物凄さに大氣が壓へつけられてゐる樣で、亡母の部屋は閉めてあッたが、いつも其前を通る時は何だか目に見えぬ者が此冷氣肌膚に浸徹する部屋に自分を引込む樣な心地がした。

自分は十七の誕生日を迎へ、此冬は聖彼得堡に行て交際社會の仲間入をするが母君の胸算であつた。然るに母君が逝去られたので、萬事が齟齬した計りか、自分の愁傷は中々譬へられぬ程である。

が、此一方ならぬ、愁傷にも關らず、實を云へば寂寞として死せるが如き故郷にモウ一と冬過さうといふ考慮は非常に萎縮ンで、時が經つと愈々此寂寞と愁傷と憂悶の結合した感情が激しくなつて、終には垂籠めて滅多に部屋を離れず、「ピヤノ」の蓋を開けず、書物を手に觸れず、マカアは荐りに慰めかねて種々の事を進めたが、いつでも仝じ返事をした。

『いやだよ、そンな氣はないよ』。すると何處ともなく、『アタラ花の盛りを何故仇に過すか?』と喚く聲が聞えて、此せつない言葉に對して應ふるものは唯一ッ―袖の雫だけだ。

人の噂に依ると、自分は段々痩せて全く面變りがしたさうだが、自分は更に無頓着である。勿論面白からぬ孤獨の生涯に殘年を送らんと决心し味氣なき世を遁れんとさへ思ひし身の

こんな事に心を苦める譯はない。

マカアは段々心配し初め、冬の末になると益々自分の容躰を懸念して、成るべく早くポコロオヴスキイから自分を移さんと決心した。が、愈々左うしやうといふには金子が必要であるが、亡母の資産の始末は如何なつてゐるか自分達は少しも知らぬ。で、是等の事情を詳悉つてゐる後見人の來訪を毎日々々待てゐた。

終に三月となり、後見人は來訪した。マカアは嬉し喜んで、一日自分が影の如く一隅から一隅に、スリ抜けた時、無頓着に平氣で獨語してゐた『まア本統に有難い、セルギイ、ミハイエロウヰチが來て下すつたので、今日は御飯の時おいでになるッて事ッたが、カシヤ様が奮發してなさりャア好いけれど』願ふ様に『カシヤ様――ふんばるんですよ。セルギイ様は如何お思ひなさるだらう、今迄は可愛がッて下すッたンだがナ』

後見人セルギイ、ミハイエロウヰチは近所の者で弱年ではあるが亡父の朋友である。で、此セルギイの來着は唯自分一家の生活を改める一事ばかりでなく、自分は子供の時から其人を敬愛し、マカアが荐りに自分を引立てんとしたは、誰よりも渠よりも其人の目前で不首尾に扱はるゝが一番自分に辛いからで。

ト云ふは一家の一同其敎女たるソオニヤを初めマカアから馬丁までセルギイを尊ンでゐたのみでなく、母君が一度自分の聽く前でセルギイの如き人を自分の良人と定めたら頗る滿足すると云はれたからだ。

其時には自分では極めて馬鹿氣た事らしく思はれた。自分の理想は丸で相違して、年若く丈高く柔形で白色で沈鬱な人が好きであつた、之に反してセルギイ、ミハイエロウヰチは年既に若からず强健肥大常に快濶で且つ磊落である。

しかし斯くの如く理想が相違してゐるにも關らず、母君の言葉は固く自分の記臆に殘ッて、今より六年前まだ漸く十一歳で、セルギイが自分に對して『お前』といふ詞を用ゐ菫草と自分を呼んでゐた時、折々内々で、工風した『若しセルギイがお嫁に欲しいつたら如何しやう?』

マカアが乳酪や何かの準備をして、待てゐた其日の午餐の少し前にセルギイ、ミハイエロウヰチは到着して、自分は窓から小形の橇に乘て家近く來た其姿を見ると態々會ひたも

なさそうな躰を粧ふとして座敷に駈込ンだ。が、玄關で聞へる足音と、マカァの歓待を盡す挨拶に答る濶達な高聲が耳に入ると矢も楯も堪らず我知らず自分の所存を忘て飛出した。

セルギイはマカァの手を取て口早に話し面白さうに笑ッゐたが、自分を見ると默然として一ト言も云はず會釋しやうともせず全く沈まり返ッてたゞ凝視めた計りで、自分何となく不快に感じ思はず羞明ンだ。

『どうも驚いた、貴孃だネ、大邊に變ッちまッた』と例の淡泊な朴實の氣性から兩手を以て自分を引寄せ『大きくなッたネ。小さな菫艸が見事な薔薇になッちまッた』

と云て痛いほど自分の手を固く握ンだ。自分は我が手のキッスせられん事を望ンでセルギイに凭れたが、たゞ其輝いた深切な眼をもて自分を凝視めたゞけだ。（紳士貴女の手をキッスし貴女紳士の前額をキッスするは魯の風俗也）

自分は六年間會はなかッたが、セルギイも太く變ッて、年は老け色艶は黒ずみ似つかはぬ髭は毵々と生へ、變らぬは唯同じ淡泊な磊落な擧動と同じ深切な實のある眼と愉快な殆んど子供らしき笑方である。

暫らくはセルギイが客である事を忘れ一家の者の如き心地したは獨りマカァと自分のみでなく、婢僕の面々も氣を配ッて嬉しさうに其用を勤めてゐた。

セルギイは自分等と一緒に在る間は嗟嘆涕泣するをもて義務の如く考ふる近所の人々とは全く反對して、極めて快活に多辨を弄し亡母の事はトント云はず、餘りの無頓着に自分は惘然として縱令親昵の間柄なりとも殆ンど許しがたき事と思ッた。程經て考ふれば是は無頓着ではなくて頗る思慮を凝した結果である。

食事を終ッてから母君が態々その爲に設けられた小座敷で茶の饗應をした。ソオニヤと自分はマカァの次に座して、ツリゴリィ老爺が亡父の烟管を持て來ると、セルギイは例の如く室内を上下しながら烟管を吹き初めた。

『いろンな不幸が重なッたネ――考へて見る、』と突然足を留めてセルギイは云ッた。

『えヱ……えヱ』とマカァは答へ、「サモワール」(湯沸しの類也)の蓋をしてソオニヤと自分の顔を睇視め半分泣きかけてゐた。

『お父さんを記臆えてるかヱ?』とセルギイは自分に向て云

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

つた。

『極ぼんやり』と自分は答へた。

『今お父さんがゐたら嘸好からう』と悠然と思慮あり氣に云つた。『私は貴孃のお父さんが大好きだつけ』と物軟らかに言葉を添えた。『天から神樣がお招きになりました』とマカアは云て「ナプキン」を茶箱に掛け一滴ホロリと前垂に落した。

『左う…悲しい事になつたナ』と云て忽然ソオニヤの方を向き、『ソオニヤ、さアお前の玩具をお見せ』と云て無作法に廣間へソオニヤと共に行つた。自分は涙一杯の眼で其あとを見送つた。

『親身の人が一人有る』とマカアは云つた。『あア、左うだネ』と自分は答へ、何だか心が此深切な人の同情に慰められて非常に豊になつた。ソオニヤの笑聲とセルギイの戯弄ふ聲は玄關に聞え、自分は一碗の茶を進めたが忽ち再た「ピヤノ」の蓋の開く音とソオニヤの小さい指で彈く音が聞えた。

『カシヤ、アレキサンドロオウナ』と渠は叫んだ『一寸來て一曲聞かせないか』

自分は此淡泊な、しかし力の有る調子を聞くが嬉しさに席を起て直ちにセルギイの傍に行くと、ビートオペンの「ソナタ」"Quasiuna Fantasia" の譜本を架上に置き『さア此曲をお聞かせ…一曲所望だ』と云て茶碗を持ち部屋の隅に退いた。

如何いふ譯だか知らぬが其人の云ふなり次第にならねばならぬ樣な心地がして。又腕が未熟である極めて平手であるといふ謝辭をする事も忘れ「ピヤノ」の前に座して、セルギイは音樂が好な計か能く理解する事を知る故、思ふ樣批判せらるゝ事を非常に恐れたるにも關らず、何事も忘れて彈じ初めて。

『面白い、中々お上手だ。貴孃は音樂は隨分御巧者の樣だネ』

此輕い諧辭は頗る嬉しく思はず顔をぼうツと染め上げた。亡父の老友セルギイは是まで子供として自分を應接つたが、同輩としての言葉を用ゐたは是が初めてゞ、自分も何だか知らぬが一種の新らしい感情を娟した。

マカアが穉ないソオニヤを連れて寐室へ行つた跡で、セルギイは頻りに亡父の事を話した、初めに交際を結ンだそもそもから段々交情は濃やかになつた事から終に父は逝去りて此時自分は猶は穉くして玩具と猫兒の間に戯れてゐた事まで

最初は、、ウロ記臆の父の如く高尚は愉快な人で愛し愛されべ

く適したもの丶如く思つたが、セルギイは自分の勤學の摸樣から最も好める職業などを聞き、最早以前の唯快活で滑稽をいふ面白い人でなく、深切で實着で、同情と敬愛を自分に現はし、何だか嬉しくてならぬ樣で、また同時に若し自分の言葉の或るものが或は父の子としての價値を落しはせぬかと折々は何だか心配でならぬ。

　マアは座敷に戻りて自分が固く口止をした事即ち自分が極めて沈鬱で憂悶で始終垂籠めてトント浮きたゝぬ始末をセルギイに訴へると、セルギイは半分戯謔に半分叱る樣に首を振て。

『左う〳〵、自分の事は少とも云はないチ』『何にも云ふ事はありませんもの』と自分は答へた『もうそんな事アないワ』實際自分の沈鬱憂悶は去て今は微塵も斯る分子は殘らぬ如く思つたばかりか、此心配をしてしめり返ッてゐた事は既に〳〵過去りし往昔で芥子粒も其氣はない樣に感じた。

『寂しい中を押通す事ゥ知らんのは不幸だ、貴孃は本統にお若い御婦人チ？』

『エヽ、左う思ひますワ』と笑ひながら答へた。

『いや、左うでない。貴孃は極質のよくないダヾッ子で自分がチヤホヤされる時ばかり幸福で自分一人になると直ぐ弱ッちまう方なんだ』

『最う少し讃めたッていゝワ』と自分は當惑の躰を秘さうとして云ッた。

『中々讃められないチ。貴孃もお父さんの子で能くお父さんに似てゐる』

　其深切な眼は再び自分に向けられ、自分は何となく不思議な感情を惹したが、ふッと氣を注けて見るとセルギイは快活らしく粧ふにも拘らず晴々しき相貌の下に絶えず考慮を廻らし多少沈痛の分子を交へ。

『貴孃には弱らうッたッて弱れない筈だが…音樂は巧者だし、書物はあるし、いろンな事を知てるのに…人は貴孃の年頃からが盛りで人生の花は今開かうといふ時に、そんなにシメり返らずともの事だ。もう是から先如何しやうウたッて遲時だ、今の中に思入れ面白く遊なけりやア』

　恰も父か或は伯父が云ふ如く自分を説得したので初めて渠の自分を同等に見る事を悟つた。若し少しにても自分を目下

のものと見たら或は多少不快に感じたかも知れぬが、更に其素振が見えぬから自分の爲に慰め且つ諭すを義務と考ふる渠を頼もしく思つた。

其晩渠はマカアと種々の用談を終つて、頓て自分の手を取り、『左様なら、カシヤ』と訣別を告げた。

『何時お目にかゝれませう？』とマカアは訊ねた。

『春まではむづかしいナ。是から如何なッてるんだかドニールカ（我が家の第二の領地なり）を見分して、それから、實はあんまり行きたくもないがモスコオへ是非行かんけりやァ……夏になりやァ度々會へます』

『何故そんなに久しく入らッしやらないノ』と自分は悲しさうに云ッた。成るべくは毎日會ひたい様な心持でゐたものが、此言葉を聞くと遽かに物悲しくなッて以前の憂悶は忽ち回復し、其容子が相貌と音聲に現れたと見え、セルギイは深切に慰めた『なァに長い様だッて音樂を玩るとか書物でも讀むとか何かしてゐりやァ直ぐ經ッちまひます』

セルギイの聲も擧動も極めて冷かで沈着いて『また春になッたら會ひませう』と云ひながら自分の手を離した。玄關まで送ると、爰で急いで毛皮の上衣を着て自分を見もしなかッた。

『何だッてあンなに知らン顔をするンだらう？　あンなに平氣な風をしてゐないだッて……本統に善い人は善い人だけれど善い人といふだけだッ』と自分は心中に思ッた。

其晩マカアと自分はいつまでも起きて暫らく話してゐたが、話題は渠の事ではない今度の夏の事で、どンなに次の冬は暮すだらうといふ自分の身に取りては中々の大問題であるが、さて何故是が大問題であるか自分にも解らぬ。何でも生涯は愉快の幸福でなければならぬといふ事は頗る單純で極めて明了なる如く思はれ、自分の心には唯未來の幸福のみを描き、ポコロオウスキイの此幽暗悽絶なる家は倏忽の中に春風駘蕩として光明漲るの心地に覺えた。

臆病の主人細君に向ひ
「どうも今日は頭が重くていけません
さいへば細君
「夫れは降雨だからで御座り升
主人「イヤ感冒の爲でしやう

家政

家内政治の法度

ふみ子

○珍膳も毎日向へば甘からず　如何程珍らしきものにても之れを毎日續けて食する時は決して甘美ならぬものなり。況んや毎日珍膳を調ふるには其費す所も莫大となるべければ心あるもの、決して爲すまじき事なるをや。去れば主婦たらむ人の膳を調ふる時の心得は、日用有觸れたるものをば甘美しく調理して家人に食べしめむとの事にてあるべけれ。思ふに假令價貴き魚肉にても其調理法の宜しきを得ぬ時は折角の味をも失はしむるのみならず徒に財を費せしのみにて何等の益をも生ぜぬなり。夫よりは本來廉末なるものをば工合能く調理して其價の廉なる割合には家人の口に甘美く珍らしと感ぜしむるやう爲すにあり然る時は主婦の手際も見へ又經濟上にも尠からぬ利を生ずることとなるべし。

○分相應　勤儉の德は屢之れを云へり。今重ねて繰返すの要はなし。然れど人は勤儉を志すと同時に分相應といふ事をも亦心得ざるべからず。分相應とは自己の地位收入に相應するの暮し向きを爲す事なり。古語にも過ぎたるは猶及ばざるが如しといへり。勿論勤儉に過ぐるといふことは容易にある間敷事にて又勤儉に過ぎたればとて利こそあれ決して害ある虞なかるべしと雖も、人は世間に對する交際といふものあれば、交際上に關することは假令些か本意に背けりと思ふ事にても、相應の取繕ひを爲ねばならぬ事ある者なり。故に平素自身に奉ずる處の事は如何程にも儉約にてあれ。衣食住共に他人に接する處の者即ち客坐敷及び外出の着物客を饗應する食物などは過不足何にも偏せぬやう相應にすべき事なり。是主婦たらむ人が一方に勤儉を守ると同時に心せでは叶はぬ事なり。

○分に安んずる事　ある人の書ける書に、無事にして家の貧しきは事ありて家の富るに勝れり。無事にして茅屋に住するは事ありて玉堂に住するに勝れり。無事にして廉食を喰ふは病ありて良藥を服するには勝れりと。主婦は平素此心得を有ちて又家人にも此事を諭され度ものなり。

○止むを得ずして人に金を貸すは寧ろ之れを與へよ　急救の際に非るよりは志堅固ならぬ人に金を貸すは寧ろ其人の怠

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

慢を増長せしむるのみにて、何の効もなきものなるとはいふ迄もなし。然れ共事と場合に依りては交際上普通の情義として借金の請求をも容れねばならぬ事あるものあり。かゝる時には先方の請求に應じて金を貸すよりも寧ろ返辨を要せずとの意を以て之を與ふるを最良の方法とす。然る時は若し一時言を設けて他の助けを假らむとする破廉恥なる人の爲には、如何に鐵面なりとも、再び之れを乞ふを得ざらしめ、些其鄙劣を爲すを得ざらしむるの材料ともなるべし。若し又實際止むを得ずして乞請したるものならむには、一層深く其人は義務を感じて之れを無要に消費せざらむと力むるなるべし。而して又一方には、之れを與へたるもの自身に於ても亦之れが返辨を待つの心なく、之れを既消の計算中に加ふるを以て、後日收入上の相違を來すともなく、或は自ら其欠を補はむとて、他の費用をも節するとあるべければ、自他共に甚効能ある方法ならむと信ず。

○自ら家事に長けたりと爲す勿れ　誇る心の生ずるは是即ち失はむとするの時到るなりとは獨り家事に就てのみいふべき事に非ず。何事も皆然らざるはなし。然れ共主婦に在りては家事に就きて自ら足らずとし、切に此の心掛あるを要す。然らざれば思はざる邊に油斷大敵を生ずべし。殊に日用の物價家邊の汚れ塵埃井水の性質屋瓦の破損兒女の健康新なる習慣等は何時の間に變更を來し居らむも知るべからざる事なれば如何に家事に長けたる細君なりとて絶へず意を加へずでは叶ふ間敷となり殊に日新月化の世の中なれば自己が是迄爲し來りたる習慣の外に如何なる良法生じ居らむも知るべからず。故に家事に當りてより日淺き主婦は勿論自ら老練なりと思考せらるゝ人にても絶へず質問考究せらるゝとを要す。

ある細君他の令孃に向ひ

「あなたさ私の方へ御遊びに入らつしやいまし。私の宅は目黒村の近邊で御座り升から。おつゝけ竹の子が出升さ目黒のは名物で御座り升から御案內を致し升う。

さいひしに傍の一人

「竹の子も名物で御座り升そうですが、夫よりは目黒の不動さんは名高ひ不動ではあり升ぬか

細君

「イヽエ私共は不動さんよりも竹の子の方が宜しいかのやうに考へ升

さいへば彼令孃

「それは竹の子が目黒村の不動產なので御座り升う。

二葉の色

ふみ子

○はしがき

紅は園生に植ふるも其色隱れなく、栴檀は二葉の頃より既に芳しゝとは古より云ひ傳へたる言の葉なるが、人も亦其如く、長じて人と異なる處ある人は、幼時より幾分か其資質に特異の點見ゆるとなき能はず。而も阿母の鞠育如何と其後の境遇に依りては大に其幼時の趣きを替ゆるとなしといふべからず。又十歲で神童、十五で才子、二十前後で並の人。などいへる反對の諺なきにあらざるも兎に角社會に立ちて稍頭角を顯はすの人は幼時既に其色彩を異にせるやに思惟せらるゝもの多し。故に今予は此欄に於て既に社會に名を知られたる人々の中に就き、逐次其幼時の性質行爲等を傳聞し得たる事柄を記載し、以て世の慈母たらむ諸姉達の參考に供せむとす。憾らくは予の聞見に乏しきと、又聞くに隨ひ之れを筆するとにより、其爰に收むる人物の種類及其順序に就ても豫め一定の規律を置くを得ず。聞知の都合に依りて其人物を列し、又其種類の如きも強ち大人君子俊秀の士にのみ限らざるへし。要するに一種出色の人を集め以て側面より家庭の教養上に資せむとするのみ。幸に諒せられよ。

(一)板垣伯の幼時

板垣伯が社會に名を知られたる後の事歷は何人も既に知悉しぬ。然れば伯が幼時は如何なる童子にてありし乎といふに、幼時に於ては左して人と異りたる處はなく、只要するに一個のわんぱく小僧といふが如き狀況なりしと、伯と鄕里を同しうする某氏は語られたり。されど其頃よりして既に大人をも壓するほどの負けじ魂と、他の艱苦を見ては之れを默視するに忍びず、己れを忘れて之れを救ふてふ義俠の氣象とは確に其稚き行爲にも顯はれ居たりしとぞ。而して其母公は實に尋常の婦人に非ず。能く良人を扶け、又伯の教育上大に心を盡して男子たるの氣慨を損はしめざらむと力め、又其義俠の嫩芽ともいふべき資質を發揚するに忽ならざりしといふ。然れば板垣伯の今日あるは天資に基くものなりとはいへ、又母公の教養其宜しきを得たるより、一層其結果を良好ならしめられしものなるとは疑なし。不幸にして母公は板伯が七歲の時

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前途多望の俊兒を遺して世を去り玉ひしかど、又其乳母氏は能く母公の意を繼ぎて、伯の鞠育上大に注意する所あり。以て愈伯の光輝を煥發するに至らしめたるなり。(乳母氏の事は既に今年高知の新聞に之れを載せたり。賢母公の事の如きは、他日別に記する所あるべし)伯が幼時の行爲の一二なりとて、伯自ら其家人に告げ玉ひたる處なりといふを傳聞するに、同伯が未だ五六歳の時の事なりとか、伯の門外に衣は敝れ髮は蓬の如く、數日食に饑へたりと思しくて足の運びもたど〳〵としたるが、一幼兒の手を攜へて彷徨し居れり。其姿如何にも可憐なる丐兒なりしかば、伯は之れを見て惻隱の情に堪へず。走て一室に入りたるに、幸ひ姉君の他所行に用ひ玉ふ衣裳の壁間に掛りたるものあり。伯大に喜びて直に之れを手にし出で門外の丐兒に與へたり。丐兒は其衣の美しきを見て怯訝に堪へず。踟蹰容易く之れを手にするを得ざりしが、伯の再三之れを强ゆるを見て漸く心を安んじ、而して之れを戴受せり。暫くありて姉君他より歸り之れを覺りて伯を責むると甚急なり。然れ共伯は姉君が叱責の意を解する克はず。徐に之れに告げて曰く、予が他に與へたる所のものは一衣のみ。事は母兒二人が饑寒に迫るに係る、何の不可なる事あらんと。然れ共姉君の怒りは容易に解けざりしに、母公は之れを聞きて却て大に喜ばれ、姉君を宥めて厚く伯を賞し玉ひしとぞ。又同じ頃の事なりとか、高知の城下に相撲場を設くるものあり、子女の行て見るもの堵の如く、其評判殊に喧しかりしかば、伯も亦家從と共に行て見むとせしに、場の四圍には堅牢なる棧敷を設けあり。貲あるものは皆之れに倚り居しかば。伯は己れに棧敷の準備なきを見て不快に堪へず。予も棧敷に上るに非れば相撲を見るを欲せずとて、從者の如何に之れを宥むるも聽かず。空しく邸に歸られしに、母公は之れを壯なりとしていはるゝやう、男子の志奪ふべからず。年少と雖も其所思は達せしむべしとて、直に人を傭使して一夜の内に棧敷を造らしめられしとぞ。翌日怡々として之れに倚る童子の顏は、一際群衆の中に眼立ちたる事ならむ。是等の事柄幾分か今日の板伯たるの資質を顯はすものにして又其の賢母公の敎養法は、能く板伯をして板伯たらしむる所以の道に叶ひたるものゝ如し。後伯が童子よりして靑年の域に進みたるころのことは詳らかに之れを聞知するを得ざれども、十四五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

歳の時にして既に五六十人の青年の頭領となり盛組と唱ふる壯士の一隊を造り以て威を城下に振ひ爲に藩主の責譴を蒙りて城外に放置せられ玉ひし事ありといへば、其年少氣鋭の徒の間にありて、既に頭角を顯はされし事をば推知するに足れり。要するに伯は其幼時に於て既に義俠、不屈等の氣字を具へられしは疑ふべからざる事實なりしなり。然れ共伯の幼時は未だ今日の板伯たるを知るもの尠く、多くは只一個のわんぱく小僧として之れを看過せしもの丶みなりしに、母公の明は夙に之れを知るあり、又土藩の執政たりし吉田東洋氏は既に伯を十四五歳の頃に知りて屢其門下に招致せむとせしも、伯は其門生の文弱に流るゝ獘あるを見て之れを屑とせず。遂に其招きに應ぜずして他日別に自ら修學する所ありしなりといふ。幼時の伯を識るもの只母公と東洋なるべきも、今日の板伯に就て其幼時を知らむと希ふもの豈啻に一二人のみならむや。伯冀くは其傳聞を世に公にするの罪を恕せよ。

(二)中江篤介氏の幼時

中江氏亦一世の奇士なり。其磊落の行爲卓絶の文藻は何人も認むる所なり。而して其氣象洒々落々たるが如き中に、一種の俠骨を具ふる事は氏が今日迄の事歴に徵して明らかなり。其自由の爲に叫び、新平民の爲に其枉屈を伸べんとするも亦一の俠たるに外ならず。其近來アルコールに中毒したりとて政界を脱し北海に牙籌を採るは抑何等の胸算に基くものなるやは未だ予の知る所に非るも、前年の生涯に於る中江氏の行爲性質は既に世に隱れなし。然れば此の如き人の幼時は如何なる狀況なりしかといふに、意外にも幼年の中江氏は實に温和なる、寧ろ婦人らしき男兒にてありしといへり。而も亦其身躰甚尫弱にして、屢母氏をして其生存を氣遣はしめられし程なりしといふ。十歳の頃より身躰漸く壯健の域に入り、而して十四五歳の頃に至りては全然一個の血性少年と化し去られしといふ。中江氏の母氏も亦賢夫人の聞へありし人にて、中江氏の十四歳の時父君の世を去られし以來は、專ら母氏の手一つにて勞苦敎養せられしなりと。(其母公の敎養法等の如きは未だ詳に之れを聞知するを得ざるを以て、玆に併せ記するを得ず。)其文藻は天資に基くものと思しく、三歳の頃既に書を能くし、五歳の頃に至りては簡易なる扁額の文字

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

等は概ね之れを讀み得し程なりといふ。故に氏の親戚父の知友などよりは、童子なる氏を招きて其扁額等の文字を讀ましむるを樂みとし、親戚相會する事などある時は、常に氏を招きて文字を讀ましめ、以て興を添ふることをなせし程なりと。而して氏も亦甚紙筆を弄ぶことを好み、群兒と共に嬉戯する等の事はなく、一に紙筆を以て日を消せしといふ、故に其費す所の紙筆少小ならず。母公は時に或は之れを小言かれし事ありしとは云共、氏の父君は甚之れを喜び、少しも其紙を費消することの多きを咎めず。一に其爲す所に任ぜられしなり。氏の文字を讀み又之れを書するや、少しも之れを人より習得するに非ず。又氏は同胞少く、單に弟氏一人ありしのみなるを以て、他の童兒の文字を習得するを見聞するにも非ずして、能く自ら字を書し、又之れを讀み其成蹟殆んど成童の如くなりしなり。其は如何にして然る乎といふに、かゝる幼童の時よりして既に字引に依りて文字を知るの方法を取りしとぞ。其力めて文字を知らむとするの念に厚きや會他に出で商店の看板などを見出す時は、先づ之れを讀過せむと試み、若し其文字中に讀み得べからざるものある時は決して其處を行過ぐるを得ず。俯仰考究是非とも之れを知らむと力め、猶且得ざる時は其文字を凝視しつゝ却歩するを以て爲に溝渠に陷りたること屢なりといふ、其熱心なる想ふべし。斯の如く氏は幼時に在りては、何の變りたる資質もなく、只其文事を嗜好するの甚しき點のみ大に群兒と異なる所ありたるのみなるが、只其幼時に於る一奇僻ともいふべきは好んで陶器を擲ち之れを打破するの一事なりといふ。氏の陶器を打破するの戯れたる、敢て世に所謂肝癪にて之れを爲すには非ず。只何故となく其戞然として音響を發し、四方に飛散するを以て愉快となすの性情より、家中の具器中陶器てふ陶器は悉く之れを破碎したるなり。假令ば食膳に供する茶碗の如きは毎日三回毎に、食し終れば必ず之れを打破するを以て常例とす。母氏屢之れを戒むるも聽かず。否之れを譴謫せざるに非るも、食し終れば忽ち其戒めを思ふに遑あらずして隙を見て之れを擲ち破るなり、故に母氏終に之れを抑制するの効なきを悟り家中の器具は悉く漆器を用ふるに至りしといふ。然れは親戚知人の中江家に往來するものは、幼童たる篤介氏に送るに玩具を以てせずして、皿小鉢の類を以て其破碎

の料に供すべきものを贈りしといふ。其成長の後に於て有せし俠氣の如きは幼時に於ては別に其包藏せし事跡の徵すべきなしと雖も其一現象として見べきは、幼時の氏は平素甚温和なるに拘らず、其弟氏が他に出て他の兒童の爲に追はれ、若くは涕泣して歸り來る事などある時は、奮然として身を挺んで、以て弟氏の爲に仇を復するに猛なりしと。斯の如きの行爲は單に弟氏に關る事のみならず。他の兒童間の事に就ても弱を淩ぐものある時は、必奮然として蹶起し爲に誤て他の兒を傷けたるとあり。爲に十二三歲の頃より父君は氏が帶ぶる小刀は、紐を以て之れを縛し容易に脫すべからざるやうになし置しとぞ。

◎人の名を呼ぶに樣といふ字を付くるは如何なる意にて侍るや

△是は直に貴人の名を指して云ふは恐れ多しとて憚る心にて樣の字を加へていふなりとて四季草てふ書にはいろ〳〵其古文例を擧げてあり升。つまり何ざまといふ意味にてさし向きていふを憚りての言葉と思はれ升。

理學

極大と極小

馨子

姉「八重ちやん、マアよう〳〵揃たこと、豆粒のやうなお土瓶て、芥子粒のやうなお茶碗、オヤソウお菓子を下さるの、アラお皿ごと口にはいつて仕舞つた、ヲホヽヽ本統にあなたの小さい物好きにも困るよ、此の間ソラお母様に買て頂いた御飯茶碗子ー、あれもマア少さいではありませんか、ヘエーあれでも未だ大き過ぎるつて、そんなら何樣のがお氣に入るのでせう、あれでも勝手ではかまがこぼして居ましたよ、妹「何てつて、姉「八重子樣のお給事をするとお櫃の葢を取たり爲たり爲續けでお急ぎなさるときは葢をする間もないつてヲホヽヽ惡口ぢやアないんです、本統ですよ、ヲホヽヽヽオヤ大變、餘り笑ひ過ぎてお皿を壓し壞して仕舞つた、御免なさいヨ、其代りあなたの氣に入る樣な豆粒許りのお皿を買て上るから、妹「それでも嫌や、姉「そんなら小豆許りの、妹「まだ大き過るの、姉「それでは芥子位の、妹「まだ嫌や、姉「それでは豆粉

一粒位の、妹「まだ……、姉「そんなら豆粒一粒の十分一位の……それでは其百分一、千分一、萬分一、萬々分一、それでも嫌やなら二千倍の顯微鏡を使つて電氣燈を點しても見えないやうな物子位の、アヽもうそれより少さいものはないのですよ、此物子だッて此れが物子でございますつて唯一ッ取り出して見せることは出來ないのですが、學者がこんなものを想像して極微のものと假定めたのですと、昔の歌にこんな可笑しいのがありますヨ、蚊の溢す涙の上の浮島の濱の砂子を千萬に碎かんて、八重ちやんも大方蚊の涙といふものは御覽なすつたことはありますまい、私だつて其通りですが、あんな少さいものゝ目から溢す涙ですから、八重ちやんのお好きの此お茶碗より、モット少さいに違ひない、ホントニあの霧といやア、アレも水蒸氣の少さいのが集まつたのですが、其霧の一粒よりもモット蚊の涙は少さいでせう、處が其上に浮島があつて、其浮島に濱があつて砂子があつて、其砂子を千に碎き又萬に碎くといふんですから、是も大方學者のいふ物子位の少さいものでせうヨ、オホヽヽヽ、ですけれども八重ちやん能く考へて御覽なさいな、こんなに少さいものは、顯微鏡でも電氣燈でも、見えない位少さいのに、又大きなものといつたら限りもありませんヨ、今いつた蚊の涙でも砂子の屑と、浮島と、水とで出來て居る譯ですから、况してあなたのお好きの此お茶碗何ぞは、物子が何箇集まつて出來たんでせうか、なか〱數も限りも分りませんヨ、それから姉樣のお茶碗も、八重ちやんのよりは大きいが、お父樣のはまだそれよりも大きいの、だからお父樣のお給事の時にはかまちやんとお櫃の蓋をして待つて居りますヨオホヽヽ、妹「アラ嫌や、あんな事計り、そんなら其上の大きいのは何でせう、

姉「其上の大きいのはネ、かうッとアノお相撲取のたべるお茶碗だの、此間の日曜にお母樣に連れられて行たアノ淺草の仁王樣に上げるお茶碗何ぞは大きいでせうヨ、オホヽヽ、妹「其上は、姉「仁王樣の御門、妹「其上は、姉「御門よりは本堂、

妹「其上は、姉「淺草區、東京、日本、亞細亞、五大洲、世界、妹「其上は、姉「其上はネ、まだ幾何もありますが、今日八重ちやんが大層乙名しいから、是から面白いお話をして聞かせませう、此世界といふものはネ、何時かもいつた通り、護模手鞠見たやうな圓いものですと、其直徑がね、二千三百

四十八里、八重ちやんは淺草までが遠い〳〵とお言ひだけれど、地球の直徑はまだそれの何千倍ですヨ、それからアノお月樣は、直徑が八百八十七里で、地球よりは少さいけれど、地球と月の間は九万七千五百里で、地徑の三十倍ですヨ、何時か八重ちやんに、お月樣とお日樣と何方が遠いでせうと言つたら、晝はお日樣が近くに來て入らつしやるから、近いけれども、夜は遠くへ入らつしやるから、お月樣の方が近いつて、そうお言ひだけれど、さうではないんですヨ、地球から月と太陽までの距離は何時も同じ事で、太陽までは三千七百八十万里餘、太陽の直徑は三十五万二千六百廿三里ですと、ですから地球を百八ッも並べないと、太陽の直徑ほどにはならないんですと、是を先刻の物子に比べると大變な違ひではありませんか、それから地球は太陽に附屬した遊星で太陽の爲めには丁度子供見たやうなものですが、其外にも地球と同じ樣に、太陽に附て居る星が火星、金星、水星、木星、土星、天王星、海王星といつて七ッ程あります、又太陽と同じ樣に、遊星を持つて居る恒星が澤山にあつて、其恒星が集まつて宇宙といふものをこしらつて居るんですが、地球と恒星の間の距離は、なか〳〵又地球と太陽との間位のものぢやアありません、其證據には地球に一番近い恒星は「アルフアーセントヲリー」といふさうです、尤も東京からは見えません、鹿兒島、高知邊からは見えるさうですが、地球からの距離は八兆三千九百五十一億三千万里で、地球と太陽の距離の二十二万千八百倍ですと、其次に近いのは白鳥宮の中の第六十一號の星ですが其距離は又今の「アルフアーセントヲリー」の三倍といふことです、光が月から地球に來るのは只二秒時間で屆くさうですが、今の「アルフアーセントヲリー」から來るには三年六ヶ月もかゝり、白鳥宮から來るには九年三ヶ月もかゝりますと、ですから遠い恒星から來るには、一万年も三万年もかゝらねば屆かないのがあります、月から來るのが僅か二秒時間で屆く位、滊車よりも何よりも疾いものが、一万年も三万年もかゝらねば屆かぬとは、何と宇宙といふものは大きなものぢやアありませんか、妹「そんなら姉樣は大きなものがお好きですから、其宇宙のやうな大きなお茶碗をこしらつて頂戴な、姉「エヽ〳〵こしらつて上げますとも」八重ちやんのおつしやることですもの何でもこしらつて上げませう、皿

いゝ玩弄物になりませうから、か、、、ですけれども其前に八重ちやんにこしらつて頂きたいものがあるの、妹「何を、、、姉「八重ちやんのお好きの少さいもの、ソラ先刻いつた物子位の少さいお茶碗さ、それをあなたがこしらつて下さると姉様は乾度宇宙のやうな大きなお茶碗をこしらつて、取替ッこをします。

文藝

繪畫の談（上）

けい子

一家を管理する御婦人方が、衣食住の撰擇整理に、御注意せらるゝに附き、御參考となるべきことは、是まで本紙上に號を重ねて掲げ來りしが、玆にまた、御留意を乞ふ可きことあり、そは他にあらず圖畫のことなり、婦人若し自ら畫を能し賜はば、子女の教育の上にも、家事を治め賜ふに付きても、其便利なること、重寳なること、こと新しく陳るまでもなしよしさなくとも、せめては畫を好み賜ふ習を養ひ賜ひて、古人の名畫、近時の良畫何くれとどり集め、朝に聖賢の圖に對しては德操を高め、夕に山水の畫に向ては汚塵を拂ひなば、自ら益する所些少にあらざるべし、又來賓あらむときなど、之を見なば其主人の人柄も思ひ遣られ、いと懷しう思はるゝは、なべての人心ならん、又教育者の說によれば、繪双紙やの娘に醜婦なし、其理由は其母美麗なる繪畫を始終目にする故、胎兒之に感じて美形となると謂へり、何れも繪畫の德を證するに餘りあり、故に古より我國に傳りし、畫家諸流の著名なるもの一通り知り置き賜はんには之を集むるに當り便利ならむと思ひ、左に記しぬ。

巨勢流　巨勢金岡は、中納言巨勢の野足の子なり、本朝上世の名畫家にして、彼の有名なる紫宸殿の聖賢障子は、公の畫く所なり。

僧明兆吉山と號す、東福寺大道和尙の法弟子なり、兆殿司と云ふ。淡路の人なり、東福寺涅槃の像を圖す。

土佐流　土佐光信は藤原氏也、其祖先經隆御繪所の元祖なり光信に至り又刑部大輔に任じ、繪所爲り、最倭畫は妙にして、兼て連歌に達す、土佐光茂、土佐光益、土佐經光、土佐刑部皆其裔なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雪舟流　僧雪舟、諱は等揚、備溪齋、米元山主といふ、備中赤濱の產なり中年相國寺にあり、畫生如拙周文の兩師に學ぶ、寛正年中明に渡り、其奧義を究む、渡唐天神の靈像は雪舟より始る。

宗丹流　小栗宗丹は周文の弟子なり、俗名明ならず中年に相國寺に入て僧となる。

(一)

家の畫(狩野)狩野大炊助正信は、相州小田原の人なり、剃髮して祐勢と改む、東山慈照院殿の近侍也、畫は周文の弟子にして此道の妙手なり、東山殿金殿を作り、宗丹に命じて之を畫しむ、書きおはらずして宗丹死す、雪舟未だ歸朝せざれは其跡を書續人なし、其後雪舟大明より歸る時泉州堺の津に宿す、其家に花鳥の屛風あり、雪舟これを見て、美なるかな吾友小栗宗丹に似たり、誰人の畫きたると問ふ、主の曰く是は將軍家の臣、狩野大炊助と云ふ人の畫がく所なり雪舟京に歸りて曰、金殿の畫、宗丹に命するに、功終らずして死す、其跡續くの功者なきの旨、幸に狩野氏の子近臣の中にあると云ふ、公の曰く、有事をいまだしらず、則命じて書きつがしむ、其筆法宗丹をあざむく、一子元信を得るに至て、遂に天下畫工の長として、法眼の位に叙す。

(二)

雜錄

雨中花

しらぬひ

なにをかはづる春雨の、
露をふくめる姫君は
霞の衣につゝまれて、
朝の園にいでにけり。
天つ乙女や降りけん、
玉貫く君の姿には、
我が戀人や宿すらん。
なにを忍ぶぞ袖かみて、
うれはしげなる面影は。
垣根のもとに身をよせて、
水にし映る汝が影を、
見る人ありと知るや
知らずや

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

今昔ものがたり

秋玉庵輯

○備前烈公の德量

備前公光政精勵治を圖り常に己れを省みて言を臣下に求しが或時打寛ぎて近侍の士といろ〳〵談話あり。其序に予も近頃は大なる過失も無之かと思ふと仰せありしに、泉某之れを承りて、イヤ夫れが即ち大なる御過かと存じ奉るといひければ流石の光政も少しく氣色變りて其儘ツト奧へ御入らせあり、泉某も恐れ入りて翌日は出仕を控へたりしに宿元まで態々御尋の使者を玉ひしかば早速登城せしに御顏色常と異なりて能き御機嫌なりしかば泉某も大ひに安堵して其の後は益々忠勤を怠らざりしといふ。又或時儒臣をして孝經爭臣論五章を講ぜしめられしとき公は老臣池田出羽池田伊賀等に向ひて仰せらるゝやう、予に善らぬ事あれば汝等心を竭して予を諫めよ予は必之れを容るゝを力むべし。而して汝等も亦人々の諫を受るに吝ならざれと仰せありしかば皆々感じ入奉りしに中川權左衛門といへる武士あり、末坐より進み出でいへるやう只今の御一言實に國家長久の基と難有く存じ奉る、恐ながら元來公は威嚴ありて而して又殊に聰明に渡らせ玉ふ、さればかかる君に仕へ奉る臣下の仕合何ものか之れに如かむ。但憾らくは公は疱瘡の跡有之怒らせ玉ふ時の御顏は實に二タ目と見上げられずと人々申候。かゝる御事にては猶更以て諫者を賞し言路を開き玉はずては相成まじと憚る色なく申上ければ公大に其直言を賞し玉ひ御悅喜大方ならず、權左門衞は殊の外面目を施して退出したりしが、同列の士は冷汗を背に坐に堪へず。後權左衞門に向ひて如何に君公直言を求め玉へばとて餘りなる事を申出たるものかなと詰りしに、權左衞門いふやう人臣の義は自己の利を思ふに遑あらず。國家の爲に無禮を忘れたるのみといひしと。權左衞門の直言賞すべしと雖も猶且光政の虚懷言を容るゝの德量稱歎するに堪たり。

○名將の識量

大塔の宮曾て吉野の奧にて食に饑へ玉ひ、難義なりと御仰せありしを、楠正成の臣下の中に嘲り奉るものあり、其者の言に。一命を捨てゝ戰場に臨む武士たとへ二三日食せざればとて何程の事かあらむ、いと柔弱なる宮かなといひければ、正成後を顧みて彼武士を睨みいふやう。おのれは朝飯の遲きを食ひたるともなき榮耀に生ひ育ちたる男なり。事に臨むものの腹中空虚にては働き難きとを知らぬ馬鹿ものかな。供の内には叶ふまじとて勘當せしとぞ。

通信

淡海子編

●高知通信

◎在監人、高知監獄署二月末の調によれば在監囚徒一千二百〇九人の內女囚は九十五人、刑事被告人百五十八人の內十四は女なりと云ふ。

◎女犯罪人、二月中各警察署より高知地方區裁判所へ押送せる女犯罪人は竊盜犯十五人、委托金物費消犯一人、故殺犯一人、換刑犯二人、賭博犯四人、盜贓牙保犯、二人、贓物犯一人、にて男犯罪人の七分一强なり。

◎撰拔生、女子高等師範學校撰拔女生中各の受驗者中井上茂代、田村榮、松山金樹の三女合格近々上京の筈。

◎佛教婦人會、須崎町佛教婦人　は去る四月例會を開きたるが來會者百餘名にして席上富士原智乘氏の讃經及同氏、吉本眞男、西明地信順、宮尾司等の諸氏演說あり中々盛會なりしと。

◎女生補欠、高知師範學校女子部二學生に十三名の欠員あり四月四日入學志願者を試撿する由。

◎賤業者の輸出、宮崎縣下小港油津地方の下等料理屋にては土佐女を續々輸入し曖昧密賣を營み居るため近來此目的にて輸出せらるゝ土佐婦人多しとは事實に近し之をきく土佐縣人士以て如何の感かある起て熱腸の靑年男女。

◎婦人追吊會。高知佛教婦人會にては去る十二日副會頭亡高田心光院並に會員死亡者の追吊會を本町本願寺に執行せり、吊詞朗讀。讃經燒香等あり終りて會員追吊の唱歌風琴合奏、及竹中茂麿師の法話もありたりと。

◎高知婦人實業會、同會は日增しに隆盛に趣く樣子なるが來る四月上旬生徒の試業をせらるゝ由尙同會は唯學術裁縫のみならず活花、茶湯、禮法とも敎授せらるゝ都合なりと。

●福島縣通信

通信員報道

◎會津通俗衞生會　なるもの若松町の醫師其他有志者の發起によりて組織せられ去月十八日午後四時より同町大字七日町淸水樓に於て發會式を擧行し、會するもの七十餘名、渡邊鼎氏の衞生會主旨の演說あり、夫より規則を議定し一同會食して散會せり、かくて同二十四日午後七時より七日町若松座に於て通俗衞生演說會を催し、十餘名の辨士かはるがはる辨じ去り十一時に至りて閉會せり、來聽者は無慮千二百名、會員は男女を論ぜず廣く募集するよしなり、

◎若松高等小學　本年の卒業生は六十餘名にして、內二十名は女子なりといふ、彼等の前途は或は東京に遊學せんとするもの、或は裁縫科專修のもの、或は家事を見習ひ且之を助くるもの、或は師範學校に入學するもの等なりといふ、

◎若松幼稚園　豫てより計畫なりし該園はいよいよ本月四日より開業し、園兒も相應の申込あり地方の評判よろしき樣に見受けらる、束修三十錢月謝二十錢にして其休日の夏期に少くして冬期に多きは地方の情態を斟酌したるものと知らる、

●福井縣通信

◎校友會　福井縣高等女學校卒業生は、舊交を溫め情誼を厚ふするの目的を以て、校友會ん設置し、過日初會を同校內に於て開かれ、同校敎員も臨席せられ頗る盛會なりしと云ふ。

◎風俗頹敗　近來機業の工女入り案れ、其醜聲忍ひず有爲の靑年男女梅毒に感染する者多し、吾人は地方の矯風上志士の奮起を望むと切なり云々。

●高知通信

◎敎員の數最近の調査に係る高知縣下小學校敎員の資格の種別は左の如し

高等校正敎員　男六十三人女十七人　尋常校正敎員　男三百三十九人女三十六人
高等校准敎員　男九人女五人　尋常校准敎員　男二百十四人女十八人
幼稚園保姆　十四人　諸學校敎員　男二人
他途出身　男九人女三人　管外旅衍　男四人
無職　男三百四十三人女百十八人懲戒に依り退職男二人
合計男九百八十九人　女二百十一人

◎入學生合格　高知縣知事撰拔に係る、高等女子師範學校へ入學すべき合格生、高知市九反田住松山金猪鐵飽町井上茂代、香美郡田村住田村榮の三女史は、本月十九日出帆の汽船に搭じ上京の途に就かれたるが、井上茂代女子は四年間の諸費用自辨の見込たゝざるより種々心配中なりしが、尋常師範學校敎諭山村獺久馬氏此事を聞かれ、遂に四年間の諸費用を支辨する事を引受け、且つ今回上京の旅費をも拾餘圓を送りし由、聞く處に依れば、井上女史は小學生徒たりし時より成蹟他生に優れ師範、中學兩校にても亦學力操行秀拔せるを見込み、將來必ず好結果を得べしと確信せしに由ると云ふ、

◎女子部廢止　高知縣尋常中學校女部は、去三月限にて閉校さるゝに付き、本月より愈高等女學校の開校に至る由、該校長敎員の撰定中なりと聞く。

◎卒業生　土佐郡第一高等小學校（高知市聯合）本期卒業生は、男生八十二名、女生三十九名なり、去月十九日より同校に於て敎育展覽會を開けり、出品數例年よりは頗る多し。

●三重縣通信

◎女學校及び養正學舍合併相談會　私立三重女學校保管委員及養正學舍設立委員

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の人々が、去る二十一日津市丸の内満壽川樓に會合して合併の相談會を開らきぬ當日は十三名の出席にして協議の末いよ〳〵合併することなり、校名を津市女學校と改め左の件を議定しぬ

一生徒は品行端正年齢滿十二年以上の女子にして尋常小學科卒業の學力を有するものたるべし、
一本校の教科を別て普通科手藝科豫科の三種とす、
一普通科は高尚なる普通學科並に女子に必要なる手藝を授く、
一手藝科は專ら實業を脩めんと欲するものに和洋服裁縫刺繡を授く、
一豫科は普通科に入るゝもの丶豫科學術手藝を授く、
一以上三科の外に撰科を設け生徒の志望により一科若しくは數科を授くとあるべし
一學期は普通科三年手藝科を二年として一ヶ年を一學年とし其授業時間を一日七時間とす

右の條件を決議して一同退散したる由なるが、聞くところによれば條件中の、普通科は從來の女學校生徒に適當の學科を授くるものにして、豫科は即ち養正學舍生徒に適當せしむるものなり、吾人は一大白を浮べて三重縣女子教育のため兩校合併を賀せざるを得ず、

◎幼稚園の協議會　前項記せる如くこたび三重女學校と養正學社との合併協ひたれば、幼稚園設立委員も右に合併するの利益なるを悟りて、一昨日設立委員諸氏は幼稚園内に協議會を開き結局合併することなれり、

正誤

女學雜誌乙の卷第三百三十八號に御揭載被下候四日市婦人禁酒會は發會式の模樣等は相違御座なく候へ共役員の姓名は四日市の婦人會の方と混合致おり候に付若し御正誤被下成候へは誠に幸福の至りに御座候四日市婦人會と申候ものと禁酒會は全く別のものにて發會の當日右婦人會の方々を招待致候爲め斯る相違を生し候ならんと存しられ候

禁酒會役員姓名

會長　船越たま子　副會長　レヅナ氏　書記　駒井富江
會計　秋山いさ子　慈善部長　上野さた子
文學部長　白石きく子
當時會員十五名に御座候

四日市　婦人禁酒會

女學雜誌社　御中

女報

淡海子編

●皇太后陛下の御儉德　畏くも天皇皇后兩陛下には、內延の御費を省かせられたるも、皇太后陛下の供御費は、少しも動かすことあるへからずとの旨、御沙汰ありたるに、皇太后陛下には右の趣聞召され、已に天皇皇后兩陛下の供御費をも節減あらせらるゝ上は、皇太后陛下の供御費をも、同樣節減を加ふべしとの令旨を杉皇太后太夫に賜はりたれは、同太夫には仰せを畏み、直ちに參內して右御令旨の趣を宮內大臣に傳達せしにぞ、同大臣は早速畏き邊に進奏したりと承はる、嗚呼聖德宏大誰か感泣せざらんや〔と〕新教育に記されたり、

●皇女御養育掛の參內　林皇女富美宮殿下の御養育主任は去月卅日午前十時參內し、兩陛下に拜謁して殿下御養育の事ども奏上し奉りたりと、

●貴夫人參內　各大臣及び有爵夫人も同日參內皇后陛下へ拜謁御機嫌を伺ひたり、

●秋元子の夜會　子爵秋元興朝氏同宗子夫人が主人にて、本月六日（木曜日）午後九時より朝野の貴紳を帝國ホテルに招き、夜會を開かれ皇族方にも臨會ありたりと、

●廢娼同盟會の運動　一時非常の熱心を以て東京府下は勿論、各府縣に向て運動を試みんとしたる、廢娼同盟會も其後閒として聞く所なかりしが、今度神奈川縣の全會員は一致して、第五議會迄に各府縣同盟會委員の大會を東京開き、當初の目的に向て議會に請願すると仝時に、各府縣を遊說員派遣の事等を協議せんとて目下奔走中なりと、

●浪華女學校　大阪玉造仁右衛町の同校にては今回規則と教法に改正を加へ、專ら婦女子に適切なる學科を授け、且他の宗教學校の如く强て洗禮を施し教會員たらしむる等の事なく、又寄宿舍中善良なる舍監を置きて、家政的の實務も練習せしむると云、

●非涜娼同盟本部委員の訪問　久留米市會に於て可決せられたる置娼建議に反對せる、非涜娼同盟本部委員として出福しる今村秀夫、淺田六郎氏等外數名は、去十日知事を訪問したるに、知事は委細內藤市長より聞知したれば別に意見を陳ぶるに及ばずと答へられたりと、又委員は諸方書記官を訪問したるに、書記官は委員等の運動に贊意を表したり、且つ大鳥居收稅長を訪問せしに、收稅長も亦た置娼論に反對の旨を述べたりと云ふ、

●江州彥根町に設置せる山中製絲所は從來蒸汽機關にて百釜を据え付け、工女百三十餘名を雇入れ專ら製絲を爲し居りしも、過般來大に其規模を擴張し釜數を增加し、工塲の增築も略竣功したるを以て目下尙六七十名の工女を募集中なりと云ふ、

●桜山女學校の隆盛　同校は近來生徒も増加せしに付、益々授業上の整理に注意し、此程岡山縣高梁順正女學校卒業生、金藤濱野子を裁縫教師とし増聘せしが、他に一名の男教師を雇聘する計畫中にして、校舍も副築をなさゝれば狹隘を訴ふるに至りたりと、

●女教師派遣　曾て讃岐進德女學校より文部省へ出願しありし女教師派遣の義は今回女子高等師範學校を卒業せられたる當市の、明石いし子に命ぜられたる由にて、來月下旬には歸高就任の答なりと、(香川新報)

●結髮　婦人の結髮は、裁縫に次ぎて、我國婦女子必須の技術なり、故に縱令、島田、唐人髷、丸髷、等は過當なるも、セメテハ、東髮、銀杏がへし、蝶々髷、位は、幼年女子の手藝科として、之れを小學の課程に加へて可也、此の實用的科藝を措いて、徒に造花、紙細工、等の贅澤に流るゝは嘆ぜずんはあらずと、新教育に記せり、

●モリス夫人　近刊の婦人教育會雜誌に同夫人を訪問するの一項あり、編者は今之を有益なる記事と認めたれば是に轉載す。一日會員米國人モリス夫人を帝國ホテルに訪へり、全氏は熱心なる宗教家のよしなるが、曾て其良人と共に我國に來りて歸國の後程なく良人を失ひ、今は寡婦となりて只二人の孫を有するのみなりとぞ、又同夫人は身体虛弱にして我國の氣候に適せず、來着後少しも病痾を放れず。醫師はしば／＼同氏に向ひ速に歸國すべしとすゝむれども、全夫人は一日も長く滯在して數多の東邦婦人に接し、宗教に感化せしめんとつとむるよしにて此の日も病を推して來會者に面接し其渡來したる目的及びヒラデルフヒヤ孤兒院の景況を語りたりその概畧を記すれば左のごとし

「ヒラデルフヒヤ」孤兒院に於ては毎年一回紀念會を催す例なるが當日は此院より出でたる數多の男女來會して往昔のことを話し互に幼時を追想して、歡を極む此の來會者中には中等以上の身分に至りし者も少なからざ是等の人は嘗ておのれが貧困にして孤兒院に養育せられたるをいさゝかも耻る心なくこの會にいづるをこよなき樂みとなし毎年若干の寄附金をなして同院維持の資を助くる者多し、

又曰予は甚だ日本を好む故に予が米國の家には日本書生の訪問絶ゆることなし予は毎月一二回必ず日本書生の留學するものを招きて饗應するを常とせり一日是等書生のために大學教授某氏を請ひて演說を依賴せしことありき同氏は其演說中日本の書生は勤勉にして操行あり是實に悅ぶべし然れどもこの勤勉操行宗教の精神に基くにあらずば永續せんこと覺束なし願くはこの精神に依りて今日の行を鞏固にせられんことを希望すと述べられしが予も亦同一の希望を有するものなり云々

倘種々談話するうち病に堪へずとて臥床に入れり其說く所の主旨はともかくも外國婦人の事に熱心なる病苦を犯して萬里の波濤を凌ぎ愛孫を殘して他國に來り其目的を廣めんとする斯の如し我國の女子も今少し熱心事に從はれたきとにこそ。

●醜業婦女渡米の風說　從來我國の婦女子が海外へ渡航して醜業をなすとに就ては其筋にて、最も嚴重に取締り居るも、彼等の巧詐なる未だ全く其の根を斷つに至らざる折柄今度米國博覽會の開設に際し各國人の同地に群集するを奇貨とし、醜業婦三百名程を渡航せしめ、一攫万金の利を博せんと謀るものあり、特に米國人も竊に此擧に加はり居りて已に各地にて、內々百餘名程を募集せしとのと、其筋の探知する所となり、最も容易ならざる次第なれば、片時も猶豫なり難しとて直に各地へ探偵を派し一方には各港解纜の海外郵船に向ひ其乘組人を一層嚴密に精査することなりしと、

●高等女學校教諭　京都府高等女學校にては、今回高等女子師範學校卒業生、尾見ふみ女を招聘したる由同校は本學期より益々改良擴張を計る見込みなりと

●男女席を同うせず　淺草區神吉町の増尾重次郎方にては豫て壁紙製造を手廣くして、日々五十名に近き職工を使用し居れど、遠くて近きは男女の道凡べての間違は之より起るとて、男女工場の境界を嚴にし特に取締を嚴重にし、信賞必罰の道能く擧がりたるが、五六日前、男工の某工場用にて女工場に來りうかつにも女工の傍らに座し居たりしを、主人重次郎が見認めて以の外に立服し、犯則者は直に場外に引出し衆工の眼前にて犯則の廉を糺問し、同場規則に照し相當の處分を施したる後ち、尚は將來を戒め而して一同の者には蕎麥を振舞うて日頃の勞を酬ひたりと

●仙臺女學校　同校は愈々本月より始業さるゝ由にて、教員には今回卒業すべき高等女子師範學校生一人を更に增聘さるゝ趣にて、學校用器具等は悉皆十分に整理したりと云へり、又同校の授業料は最高金五十錢にして最低は十五錢(七級に分ちしもの)なりと、尚寄宿生の如きは尤も節約を旨とせらるゝ由

●醜業婦の密航手段　近來渡行者が旅券の下附を乞ふ事六ヶ敷なりたるより、醜業を目的とせる婦女子等は百方苦慮の上遂に外國郵船のボーイ等と謀し合せて其の目的を遂せんとする者間々ある由なるが、茲に當港に於て專ら此の醜業目的の渡航者をして乘船の途を得せしむることを周旋する者は、尾上町五丁目邊に住する瀧山某の妻にして、其の外東京本郷區脊木町二丁目增井某の情婦にて、目下米國に滯留せる松浦の妻ツ子等も此の仲間にて、彼等は種々の手段にて無智の婦人を懷け置き、時々米國より醜業婦買入れの爲め渡來する者の需に應じて、密航なさしめ以て若干の手數料を貪れる由なるが、此の頃行ひたる彼れ等が密航の手段は、眞夜中午前一時頃當市内田町の海岸より艀船を出して、密航婦女を乘せ遣り本船に着したる上は豫て共謀なし居る船中のボーイに引渡して遂行かしむる手筈なりと、又た昨今右醜業婦買入れの爲め米國より來濱し居るは、白井猪平とか云ふ者にて、目下其の方法に就き同謀者と密計を凝し居れる由なるが、又彼の松浦ツ子は其筋にて醜業婦の渡航を取締れる方法の秘密を知らんとて、某官吏と情を通じ巧みに其手段を研究し居れり、又該官吏は全くツ子が爲めに魅せられて、不日他の婦人を伴ない米國へ航せんと計畫中なりと貿易新聞に見ゆ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

●日本婦人の身代　日本婦人の辭として、唯だ衣服を新調するとにのみ心を用ひ、又た上流社會の風として婦人は多く外出せざるを以て、折角新調したる衣服も一生簞笥の中を出でざると多し、嚔衣服は日本婦人の財產乎、吾人は愛す西洋婦人が平素僅に一二枚の衣服を有し唯だ新陳交代時様を追ふて是れ調へ、更らに多きを貪らざるをと扶桑新聞に掲ぐ、

●全國の免許產婆　去月二十五日の出板、內務省衛生局年報によれば、明治十九年に二百七十四人、同廿年末に三百三十八人、同廿一年に四百五十七人、同廿二年に六百廿一人、同廿三年に八百二十八人なり、之に由て觀れば產婆の數年々著しき增加なりき、

●殊勝なる心掛　鹿兒嶋山下町四百五十五番戸野守峯子女史は過日同子の許に通學せる、裁縫科專門生の婦女子四五名を伴ひて、火事場を見廻れたるに六十余戸の人々が家屋を燒き拂はれて皆な焦土となり、今は早や雨露を凌ぐべき家もなく、實に憐れなる人々が茫然として灰燼の間に彷徨ひつゝ途方に暮て居るもあれは、又た一方には燒け跡を木片にて掻き廻わしながら何か搜索しつゝある人々の有様を見て坐ろに哀憐の情を催ふして歸られし由なりしに野守子を始め右の專門科生徒萩原、白石、田尻喜入其外廿四名の婦女子は互ひに金五圓を醵集して罹災者に救助されたりと實に殊勝の心掛と云ふべし(鹿兒嶋)

●感ずべき少女　廣島縣廣島高等小學校三年生長井蝶(十二)は毎日使用する筆墨紙料を節し、毎月六十六錢づゝ、六ヶ年間製艦費中へ献金したき旨願出でたるよし、此れは他人の勸めを受けたるものにあらず全く自分の發意なりとか、

●今治青年婦人會　同地の仙波フジエ、石原タカ、重松タマヨの諸子發企となり、今治高等小學校卒業生及び神戸、岡山等の各女學校戻りの婦女子を會合して題名の婦人會を組織し音樂、女工等の研究をなし、專ら婦德の修養を計るよし、其の會日は毎月最終の日曜日、會場は同地舊松の本、砂田某氏の宅を以て之に充て目下已に三十名の會員ありといふ、

●師範學校女子部入學試驗　佐賀縣尋常師範學校女子部の入學試驗は來る廿一日より執行するが、志願者は三十七名にして其內十五名を採用する筈なり、

●裁縫傳習所を開く　中村町沖藤悲川嶋繁壽兩女史は、是迄自宅に於て良家の處女に裁縫を傳習し來りしが、追々生徒の增加するに從ひ狹隘を告るより、今回双方合併して天神橋通り電信局東隣に一大家屋を借受け、傳習所に宛て日々教授し居れり現時生徒の數三十餘名にして頗る盛大なるが、猶續々傳習を申込むものある趣なれば一層盛大に至るべし。

●山陽女學校　山陽女學校には四月一日第五學年卒業式を擧行する事なるか、今回の卒業生は神原トラ子、中堀トク子、菅ヒデ子、赤松小夏、佐々木莊子、底田トモ子の六名なりと、又た全日の卒業式順序は、奏樂、聖書朗讀、祈禱、勅語捧讀、唱歌(御國の民)報告、卒業生えの勸め、卒業證書授與、告別(卒業生總代)、祝辭(學生總代)、同(來賓)唱歌等なり、

●靜岡高等女學校　靜岡市高等女學校の開設に付ゐては其後創立委員諸氏の盡力に依り贊成者意外に増加し、開校の準備着々歩を進め目下設置許可の義を其筋へ出願中に付き許可の指令下り次第開校の都合にて、校舍は鷹匠町三丁目なる靜岡尋常師範學校女子部寄宿舍跡を一時假用するならんと、

●英國詩家アーノルド氏の著述　過般我國に來遊したる詩家アーノルド氏は、歸國以來日本の國情、風土を欽慕し居たる由なるが、今回(吾妻)と題する一著述を爲せり、而して此著述は彼のシエークスピーアの院本に於けるが如き脚本にして、其脚本の事實たる娶裝御前が貞操を賞揚したるものにして、至極く面白く補綴しありと云ふ、而して氏は其著書を宮內省に一部献納せりと、又氏は近日英國に於て名高き俳優に依賴して此脚本に依り演藝せしむる決心ありと、今又氏より大藏省參事官添田壽一氏の許に達したる書面によれば、氏か今回の著述は日本婦人が夫に對する貞節を稱揚し廣く萬國婦人の龜鑑たらしめ、何分か日本の恩義を報する考案なり云々と書せりと大日本教育新聞に見ゆ、

●日本弘道會婦人部　去十二日四谷愛住女學校にて開會せられたり、當日は西村樋田の諸氏及び、三輪田女史の演說ありて、後尋常科四年生、大內靜雄、廣部一の二人をして弘道會の主旨につきて對話せしめきといふ、

外報

○故大統領ヘイス氏か臨終に及ひて其の心に浮び來りし者は夫人の面影なりき、其最後の言に曰く「余は今ルーシーの在る所に行く」なりと、

○シカゴ世界博覽會に於けるニューヨーク割烹學校の出品監督者たるウユリエット、コルセン孃は其の閉會後國民家庭教育學校と云ふへきものを設立せんと計畫せる由。

○ブース將軍の長女にして今は佛蘭西救世軍の總理たるラ、マレケール女史は同國に救世軍一千二百四十人ある由を報告せり。

○マサチユーセツト州婦人撰擧權擴張會の事務委員は其の例會に於て左の如き決議を爲せり曰く、

マサチユーセツト州婦人撰擧權擴張會は其の主張する改革の眞正なる友にして且つ其の請願に捺印し常に立法行政上に於て婦人に同等の權利を與ふるに盡力せし監督フヰリツプ、ブルークス氏の死を悼き、氏は單純に且つ剛毅を以て本會の主義に同情を表したり其の名は常に自由同權正義等の在る處に必す記臆せらるへきものなり」と。

○千八百九十年以來婦人の爲めに開かれんとせしジヨンス、ホプキンス大學の醫學科に五十万弗の寄附を爲さんとの計畫ありて、ジヨンス、ガーレツと氏の女メリー、ガーレツト孃は先つ五万弗を寄附せしかは之に次て合衆國の諸州に婦人の委員起り此の事に盡力する事となれり、ガーレツト孃今は又三十五万弗を寄附し兩度合せて四十万弗となれり、同校にては之をメリー、ガーレツト資本金と呼へりとか、寄附の全金額中の五万弗を以て婦人資本金記念堂とも云ふへきものを建立する由。

兒山處士序

蔦廼舍主人撰

修正小倉百首

夕月夜小倉の山に咲匂ふ花紅葉のいろ香深き百首は、うち日さす都を始めて、あまさかる鄙の里々にいたるまで、めで貴ひもてはやしつゝ、幼き女の物いひ習ふ頃よりそら、よみさせ、はた歌貝ちふ物に作りて翫ひとなすのみならず、とつきする調度の一品にさへ數へ用るはかりの習慣となりて、糸つむぐ賤の女も、磯なつむ蜑の少女も、歌としいへはかならずまづ、百人一首をなんとなふる世とはなりぬ、さるをそが歌のなからは、いと〳〵いまはしき戀の歌どもにて、親族ともの中らひなどにては、よむさへ汗あゆる心地せらるゝもいと多かり、かゝる歌をしもいとけなきより讀覺えたらんには、かのならひ性となるといへる詞のこと、遂に風儀を紊し、淫れ事の媒とやならんと、うれたくもうれたき限りにこそありけれ、況して開けゆく今の大御代となりては、萬の事ことあし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

きを去り長きに改むる時なるをや、吾朝日に匂ふ櫻井の大人、こをいたく歎きおもはしく、戀の歌をバはぶき捨、みなから四季雜のにせまくはしと、ねもころにはかられたり、おのれも年ごろ思ひ立たるわざふしあれどいかにせん、吾出石の里は過し年、迦具土の神の荒備にかゝり、民の家居こと〳〵く燒拂はれ、ありとあらゆる書籍とも殘りなくやけ失て、見あはすべき歌書などは一ひらだになく、得しも果さてあたら年月をおくりしかと、かくては大人の眞心をも空しくしおのれが志をも遂る時なからんと、此頃思ひ起しておのれがそらおほえに覺えしまに〳〵、ものしつるにてぞありける、さりながら古への歌聖の、心をこめて撰はれたるを拙なき身もてみだりに取いろひせしは、あなかしこいみじき罪なるは更にもいはず、此道に秀たる人々の見たらんにはいたく謗らるべけれども、そはまた改めもし正しもし給はゞ、なか〳〵におのれがこよなき幸にそあれ、おのれは唯一むきに、色香たへなる小倉の山の花に紅葉にたち交りて世のさまたげなす、うはらをはかりはらはん道のしをりとなれるになむ。かくいふは蔦迺舎のあるしなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

修正小倉百首序

我國婦女。春初必弄牌子。牌子多寫小倉式紙。暗記成誦。不錯一語。兒女漸解語必先口授之。夫人幼時所記。終身不遺。式紙一百。所謂戀歌殆居其半。甚則至猥褻汙穢有過俚歌者。使兒女不學如維新前則已。今也才學日進。混若源泉。若是而不悛。烏保不爲在原業平小野小町一流人物乎。余深慨焉。歌以雅詠代戀歌者數年。未果也。今玆季秋。與故人臼田蔦舍語。談及此事。蔦舍感憤自任。會節過復月。弄牌之期將至。黽勉乃成。榛莽夷。樹嘉列。汙濁疏。清泉發。其有益於世教必矣。史稱後光明天皇不賦和歌。常日中世式微。和歌源語盛行所致。伊藤仁齋好詠和歌。其集二百八十餘首。而無一戀歌。噫

天皇之聖明。仁齋之嚴正。其憂天下後世也深矣。他日刻成。當先捧一本於

天皇陛下。而奠一本於仁齋墓前也。

明治二十五年十有二月

兒山處士　櫻井　勉　撰

凡例

陽成天皇の御歌參議等の歌はおのれ淺學にして他集にある事を記憶せずよりていと〳〵本意ならね共他人をもてさしかへたり儀同三司母も同樣なれども拾遺集雜の部に高階成忠女とありて夢とのみ云々とある歌をもて補なひたり。

すべて戀の歌に替たる歌は諸歌集に出たるにていづれも秀詠なるは勿論なれども元の歌にくらべなばいさゝか劣れりと思はるるもあるべくはた歌數のすくなきは左までに思はれぬのをも取出て補ひたるもあるべし見ん人いたくな咎め給ひそよ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

（一）天智天皇

秋の田のかりほの庵の
苫をあらみ
我衣手は
露にぬれつゝ

（二）持統天皇

春過て夏きにけらし
白たへの
ころもほすてふ
天のかぐ山

（三）・柿本人麿

ほの〴〵とあかしの浦の
朝きりに
しまかくれゆく
船をしそ思ふ

（四）山部赤人

田子の浦に打出てみれば
白たへの
ふしの高根に
雪はふりつゝ

（五）猿丸太夫

奥山にもみちふみわけ
なく鹿の
聲きく時ぞ秋は
かなしき

（六）中納言家持

鵲のわたせる橋に
おく霜の
しろきを見れば
夜ぞ更にける

（七）阿倍仲麿

天の原ふりさけみれば
春日なる
三笠の山に
出し月かも

（八）喜撰法師

我庵は都のたつみ
鹿ぞすむ
よを宇治山と人は
いふなり

（九）・小野小町

吹むすぶ風は昔の
秋ながら
ありしにもにぬ
袖の露かな

（十）蟬丸

是やこのゆくもかへるも
わかれては
志るもしらぬも
逢坂の關

（十一）参議篁

和田の原八十島かけて
こぎ出ぬと
人にはつけよ
あまの釣舟

（十二）僧正遍照

あまつ風雲のかよひ路
吹とぢよ
乙女の姿しばし
とゞめん

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

（十三）元明天皇
とぶ鳥のあすかの里を
おきていなハ
君があたりは見えず
かもあらん

（十四）河原左大臣
けふ櫻雨にわが身
いさぬれん
香こめにさそふ
風のこぬまに

（十五）光孝天皇
君が爲はるの野に出て
わかなつむ
わが衣手に
雪はふりつゝ

（十六）中納言行平
立列れいなばの山の
みねにをふる
まつとしきかば
今かへり來ん

（十七）在原業平朝臣
千はやふる神代もきかず
たつ田川
からくれなゐに
水くゝるとは

（十八）藤原敏行朝臣
秋來ぬと目にはさやかに
みえねども
風の音にぞ
驚かれぬる

（十九）伊勢
春霞たつを見捨て
ゆく鴈は
はなゝき里に
すみやならへる

（二十）元良親王
朝まだき起てぞ見つる
梅の花
よのまの風の
うしろめたさに

（廿一）素性法師
見渡せば柳櫻を
こきまぜて
都ぞ春の錦
なりける

（廿二）文屋康秀
吹からに秋の草木の
しをるれば
うべ山風をあらしと
いふらん

（廿三）大江千里
月みればちゞに物こそ
かなしけれ
我身ひとつの秋には
あらねど

（廿四）菅家
此たびはぬさもとりあへず
手向山
もみぢの錦神の
まに〳〵

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

小橋勝之助君を悼む

奮勵子編

明治廿四年十二月廿七日余は岡山孤兒院を辭し、君と同車して播州那波のステーションに降る。夫より君が故山播州瓜生村に赴かんとす、此里程二里餘なり。余は那波のステーションを降りたる時、君の病痾甚だ危篤に感じたるより、强て君に人車を勸むるも君は固辭して余と徒步爲さんとす。此旅行たるや實に君が一代の歷程を開き得たる有益なる旅行にてありし、

冬の日の中天に懸りし頃より二里餘の路程遠からざるも、君が疲勞には長程にして耐ゆべくもあらず、君は震災の當時より愛岐の野に饑を忍びて救濟の勞役に當り、不眠踈食に痛く身を害したれば、徒步の困難如何許りぞ。君は徐々として五六町步みて枯芝生に伏して息ひ、息ひて亦步む其幾回なるを知らず。僅々二里餘の路程五六時間を費し漸くに瓜生村の博愛社に到着せしは其夜の七時頃なりき。

聞く君は賢母が至善の手に養れ、慈愛の涙に育ちぬ、君は自から不孝者と言ふ。君が母公は貧苦に起り勤儉以て今日に見る博愛社の遺產を作りし人なり、彼は君の學資を作らん爲には遂に滋養不供の病に罹りて死せり。之れ君が母たるなり、君若年の時血情に驅られて惡情に陷たるとあり、時に母公に苦勞させたるは事實なり。之れ余も亦不孝とす、然れども君を知りて不孝者と見るべからず、盖し君は其自から寫し取れる十數種の佛經文を有せり、之れ君は何の必要ありて寫せしや。君が母公は豫て佛敎篤信者たり、君は母が喜び給ふとを樂とせり、故に或寺院に佛文經十數種を借用して之を寫し給り、夜每說法して母公に聽問せしめて自から樂しみとせしにあらずや、

君は幾千万人に稀れなる肺の位置左右を異にせり、幾多の醫師は君の如き肺の位置あるを知らずと。君は基督敎を信ぜざる以前には或る醫學校に學びたる人なり、故に由や醫術の秘奧を極め得ざるとも醫術には篤志の人なり。君曰く我生るも今后三年に過ぎざるべし、我社には數十の孤兒あり其内學志ある者あらば醫學に就しめ以て、我身の死后は遺體を解剖し、異狀の腹藏を彼れ等が爲めに永く醫術の材料に供せしむべし、之れ今日君に對しての遺言なりと、君の語れる時、日は暮れ互の身は枯芝生の上にあり折に君が面を見る能はざるは遺憾にてありき。噫其時君の宿せし彼の枯芝は三稔の后今歲の春に環り會ひ今や春雨に麗ひて、すみれの花の姿や如何にあらむ、懷舊の涙如何に余を狂はしむ、君の遺言を君が舍弟の齎らせし報に參せば、

拜啓一昨日御通報申上候通り社長儀愈々去る十二日午後十一時永眠仕候實に社長は去十二日晩迄に面會すべき人々に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

も而會し凡ての雜務を終へ特に弟等に將來の方針に付き談ぜられ晩景喜ばしき如何にも平和喜樂の感謝を天父に奉げられ次に 天の父よ願はくは我の靈魂を爾の手に取り玉へ」の祈りと共に病勢一變し十一時頃に至り安る一同の百九拾七番の讃美の音と共に天の永遠の國へ取り玉へり幸に社長の爲め感謝せられよ

社長存命中の兼々の志望にて死後屍躰を解剖して醫學研究の資に充て且つ骨を永遠に保存し呉れとのことにて目下其筋へ願出中なりしか漸く昨十四日許可せられ候に付き愈々明十六日午前九時開式にて解剖に取り掛り明後十七日葬式執行致す都合に相定め申候間御報知申上候

社長は主の聖旨に依り既に永眠に就きたるも我儕乍不及神の御助けと基督の誘導の下に社長の赤志を繼續し以て孤兒實業的敎育の事業を大成せんと决心仕候願くは弟等の爲めに常に主に御祈り被下御引き立ての程偏に奉希候

先は右要用迄申上候　匆々敬具

三月十五日

小橋實之助

嗚呼君逝けり、嗚呼余今は君の事多くは忘れたりき、尙ほ余の記臆して忘る能はざるもの君が愛國の熱腸是れなり、君は實に愛國者なり、現時日本の形勢を慨せる。君は熱心なる基督信者にして君の如き確信平和なる人多く知らず、現在の宗敎會の荒況傳道の振ざる、傳道者の自給の精神に乏しくして、實道者流の多きを嘆じて曰く、傳道者は宜敷醫術若くは他に一の手に職を有すべしと、又日本人に起業の精神に乏しく、植産の不振等一句一言皆肺肝より出るの語、血涙滴々たり、君は勿論學者にあらず、又實業家にして經驗あらず、故に君の說直に之を採て用ゆべからざるも、國を愛し人を思ふ其至誠君を知るもの誰か服せざらんや、殊に君が博愛なる遂に孤兒の爲に身命を是が爲に捧ぐ。

君は又農學に篤志なり、君が胸底には北海道の拓植の横はりて三年の久しき其志を果さゞりしが、昨春其時節の到來して君を北海道の野に遊ばしむ、然ども顧みて身の危きを感じ、長途半にして世を辭するや知るべからず、故に竊に生別告辭を遺して出發せられたるも、君が信仰皇天の加護特により遂に其志望を果されき。

嗚呼余は思ふ半之を記するに耐え得ず、曩に友人紫苑山人我社巖本氏等、既に福音新報、評論に詳傳す、余の今更何をか贅せむ、唯君が那波路途の談話端なく爰に涙の筆を染むるのみ。

嗚呼播州瓜生の北面、赤松の山、錆びたる松籟、谿流滔々として淸く、君の爲め永く其悲調をとゞめむ。

明治卅三年四月念三日

君が心友　畜勦

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

農科大學出身星野愼之助君編

應用植物編
(附) 詩經植物類考

クロース製本二百三十頁
定價金五拾錢

右は君が大學々窓にありし時自から便に供せんとて編み置かれしもの、此頃某校教授上の必要より印刷せられんとするを乞ふて出版せり、之を一見するに便利なる有用植物索引書とも言ふべく、明亮なる實用植物の戸籍書とも言ふべく、簡明なる植物分類撿定書とも言ふべく、殊に凶年に食し得べきもの、藥用のもの、有毒のもの、牧草用のもの、纖維用のもの其他種々の用に供すべきものを一々明かにして其性質形狀などを掲げ、澱粉纖維タンニン等の製法をも示す、而して索行表ありて容易に之を探ぬるを得るなど親切至れり、其分類撿定表、合科植物特徴表、材木有害灌木利用表の如き最も便を屬す就中詩經植物類を務めて翻譯し、支那の歌草詩花を明かにせし如きは文學の範圍に關する所少しとせず。要するに植物學を學ばざる者も、又農家にも一本を備へて便利言ふべからざるものなり。

發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社
發賣所 東京市日本橋區通り三丁目 丸善商社
賣捌所 東京堂、東海堂、巖々堂、武藏屋、中西屋、警醒社、瑞穗屋、小林

●女子生徒募集●

各級缺員アリ身元確實品行方正ノ女子年齢十一以上ノモノハ何人ニテモ入學ヲ許ス希望者ハ至急申込アレ●本館ノ教科概目ハ國文、漢文、英語、理學、化學、動植物學、算術、代數、繪畫、音樂、挿花、裁縫、料理等ニシテ生徒各自ノ希望ニヨリ一科若シクハ數科ヲ撰擧スルノ自由ヲ與フ月謝金一圓五拾錢無束修詳細ノ規則書ハ郵券二錢ヲ要ス●本館ノ特色ハ級ノ高下ニ由リテ擔當教師其人ヲ異ニセス故ニ諸學科ノ進歩殊ニ速ナリ且ツ土地高燥校舍清潔實ニ淑女ノ最好教場ナリ

虎ノ門内舊學習院跡
東京女學館

明治二十六年四月

横山男君著

婚姻論

洋綴中本二百三拾九頁
特別賣價金十六錢
郵便税金四錢

目次

(一)總論○(二)婚姻の定則○(三)婚姻は人類の天性○(四)婚姻の効力○(五)婚姻數は社會の盛衰によりて增減す○(六)早婚上○(七)早婚中○(八)早婚下○(九)晩婚○(十)私婚上○(十一)私婚下○(十二)血族婚上○(十三)血族婚下○(十四)濫婚上○(十五)濫婚下○(十六)離婚上○(十七)離婚中○(十八)離婚下○(十九)正婚○(二十)結婚年齢○(廿一)結婚年齢の差○(廿二)男女共諾法上○(廿三)男女共諾法中○(廿四)男女共諾法下○(廿五)男女互に撰ふ事○(廿六)結婚の境界○(廿七)離婚○(廿八)結論○目次終

東京市麹町區下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

華族女學校長西村茂樹先生序
法學士畑良太郎著

日本婦人論

全一冊
定價金三十錢

女子教育に關する著書世間甚た多しと雖概ね一部分のことを記述せるものなるか本書は女子躰質上の資格性質上の資格藝能上の資格より詳論して婦道の全躰に及ぼし一切女子は如何なる點にまで責任を負擔すべきものなるかを丁寧に論じたるを以て自ら女子教育の方針を示せるものにて又婦女子自ら之を誦讀するときは大に己れの本分を明にして大層守る所あるに足るべし

第一高等中學校教授久米幹文閲并序
山田稻子女史著

和文消息

全一冊
定價 金十錢

女史は天稟の英才にして和文和歌に妙を得たる人なり女史の文藻は教育時論文苑欄内の特別寄書家として夙に世の稱賛を得たる所なり今女史は絶妙の文章に此書を著されたり此書は全く女子の用ふる和文躰にて十二月帖及親戚朋友間の贈答にかゝれしものなれば女學校の教科書として又貴婦人令孃の獨修書として模範となることとすくなからず幸に購求の榮を給へ

瓜生寅著述

女子家政學

全二冊
上四十五錢
下七十錢

此書は全篇を十六章に分ち更に百九十三項に細別して家族のこと家作のこと家内健康の事空氣流通法煖爐地坑烟突の造法家屋の修飾家中運動食料身躰衣服の清潔食物調理早起の事行儀作法の事に至るまで最平易なる文章にて丁寧懇切に叙述せるものなり之を中等教育に關る諸學校教科用書として最適當なるのみならず一般婦女の誦讀して日用に裨益多かるべし

教育書專賣所
東京神田柳原河岸十四號地（電話番號八十一番）
普及舍主辻太

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

神學士シー、エス、イビー先生序
帝國文科大學教授ゼー、エムデイクソン先生序
米國文學博士珍田捨已先生校閲
奚疑 島田豐先生纂譯

雙解 英和大辭典

再版廣告

（再 版）

製本最上等
洋裝總革金文字入
縱九寸二分
横六寸二分
千二百五十ページ
一ページ二列 六十七段
實價金二圓八十錢
全國無遞送料

本書は曩に一千部限特別廉價を以て販賣せしに幸に江湖の大好評を得て已に初版を賣盡し諸彦の高需を空ふせしが今や初版を訂正して活字の誤植ある處は鉛版を改め專門語の如きは更に專門家の校訂を乞ふて之を正し卷尾の圖彙を改版し最良の料紙舶來の厚革を用ゐて製本を堅牢にし以て第二版を發行するに至れり依て當初の稟告を履て實價に復し全國無遞送料にて廣く販賣せんと欲す本書の特色他の字書に優る要點は左に之を略載すれば大方の諸君貴覽の後舊に倍し陸續購求あらんことを懇請す

本書は千八百八十八年刊行のウエブスター氏の大字典を基本として廢語秘用を除くの外悉皆之を譯出し更に客歲新刊の同氏萬國字典を參酌して數千言を增補したるを以て語數は無慮十二萬餘言あり○毎語原書の英譯を掲げ之に對當する和譯を下せり是雙解字典の特色あり○本書は英和雙解なるを以て撿字の際啻に其の語の和譯の何たるを解せらるゝのみならず英文を和譯し和文を英譯するの兩便を兼ぬ是英學進歩の今日にありて必要なる良書にして他に比類なき所なり○原書中の熟語は勿論他の諸熟語集より增補編譯しあれば又熟語字書の用を兼ぬ○新語多きを以て近來船載の新刊書を閲覽するに大に便益を與ふ○動植理化法律哲學を初め各專門語は元より專門諸先生に就て質したる譯語を下しあれども今回更に注意して諸專門先生の訂正を乞ひ鉛版を改正したれば他の字書に未だ載せざる新譯語を載す例へば Abacu 指數器（舊譯の増訂）、Byssus 菌線維（舊譯植物の名）、Flat（音樂語）變號の（舊譯音の低き）等の類の如し○書中の插圖は原書及ひ大字典其他有益なる圖書を掲げあれば其數實に千五百有餘にして他に比類なき所なり○附錄中の諸外國の套言熟語諺語箴言等に至っては萬國大字典に據て全體之を譯出し勉て本邦の俗語若くは套言を適用す○書中の普通語は徹頭徹尾米國文學博士珍田捨已先生の訂正を經たれば一毫の誤謬なきを保證す○卷首に綴字法の指引及び「アルファベット」二十六字の發音法を掲ぐ○卷尾に書中の圖を部門に依て之を分ち五十頁の圖彙を添ふ

○見本御入用の節は二錢郵券封入御申越次第送呈仕候

發賣元 東京京橋區竹川町十三番地 共益商社書店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

エール大學教授神學博士 フイシャル先生著
横井時雄氏譯

天啓教と聖書

定價八錢
郵稅二錢

聖書は基督教の根據なり、聖書の性質を明かにするは即ち基督教の性質を明かにするなり、此の故に現今歐米神學思想は實に聖書の性質如何と云ふの問題に中心す、極端なる批評學者は聖書を以て信ずるに足らざる妄誕不稽の書と論定し、極端なる保守的學者は聖書を以て一點一劃の誤謬なき天降の奇蹟書物となす、輿論の歸着する處遂に果して如何、是れ基督信者に取り尤も切迫關心の問題なり、但しこれ基督教の存廢如何に關する問題なるのみならず亦吾人が聖公の教を理解せんとするに付ては此問題の考究尤も必要なりとす本書は史學者批評學者として英米に有名なるフイシャル博士の熟成の結論を述べたる者なり一篇の單論文に過ずとは雖も讀者をして基督教の本義と聖書の主義との概略に通ぜしめ、其の信仰上の位置をして磐岩よりも尙ほ堅ならしむるに於て力餘あらん

松村介石君著

保羅の傳

正價三十錢
郵稅六錢

◎女學雜誌評

尊敬の心なき、同情の念ひなき人物批評は、厭ふべきの甚しきものなり、何さなれば其人物を誤解すればなり、現今の如き人物批評流行の時は各自大に戒むる所なかるべからず、恐らくは大人を傷め、英雄を泣かしめん、警醒社發行の保羅傳は、松村介石君の著す所なり、取りて之を讀むに、其第十章、ステパノの事を記せし終りに曰く、

或人曰くガマリエルは保羅が第一の師也、而してステパノは第二の師也さ、英雄は英雄に感じ、豪傑は豪傑に動くさ、以て著者が保羅に同情を表するの念、如何に深きかを推すべし、若し同情に乏しき批評家ならば、此處を寫すに於ても、唯其激烈性を現はす爲めにのみ着筆するに過ぎざりしならんに、

讀んで卷末に至れば、曰く、

嗚呼保羅よ汝は餘り高大に過ぐ、我筆畢に汝を寫すと能はざるなり、願くは小物が大物を寫す能はざるの罪を宥せアーメン

さ、以て著者が崇敬の心、如何に篤きかを察すべし、若し尊敬の心なき批評家ならば、物足らぬ評論をなし、若しくは誤りたる說明をなし、却て自ら得々たるものありしならんに、

た、著者此崇敬の心あり、同情の念ひあり 以て此基督教的偉人物を寫すべきなり、余は保羅の爲めに此傳現はれたるを祝し、青年の爲めに此著者出でたるを祝す、

立志之礎、倫古龍、共に松村君の著、世を益するを多し、保羅之傳に至りては、前二書に優りて、人を感じ世を動かすべしさ信ず、余は敢愛する日本の同胞が嚴肅敬虔の心を以て、此偉人——保羅に接せんとを望む也

發兌 東京新橋 警醒社書店
賣捌 大坂西區 福音社
賣捌 東京下六番町 女學雜誌社

高等商業學校參考書

Lesson in Commerce.

拜啓此度飜刻仕候商業通論の價は伊國ゾノア府高等商業學校教授ガムベロ並に倫敦大學商業學及商法教授ゼームスゴール兩博士の合著に係る昨年中の新作に有之實業問題の盛なる今日何人と雖ども一讀せざるべからざるの寶典に御坐候然る處舶載未た多からず且代價も低廉ならず(目下賣價一圓三十五錢)仍而此度弊社に於て飜刻發賣仕り製本用紙とも原版に劣らずして代價は殆と半額(七十五錢)に致し全國無遞送料を以て御求に應し可申候間至急御注文の程願上候謹白

明治二十六年三月

東京神田區雉子町三十番地
園々社書店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文學界

第二號要目

三月卅一日發兌

心影及び其贊　禿木
鬱孤洞漫言　天爲居士
觀世音夢
かたつむり　無聲
彙報　新紙文字、ライン氏逝く、新刊雜誌紹介、新刊書紹介
群書一斑　芭蕉を觀る書類、兼好を觀る書類其他數件
イリオット　棲月
(小說)雪の日　一葉
琵琶法師　古藤庵
(附錄)
女歌仙家集―伊勢　大和田建樹

改正定價表

東京市內	
一冊	六錢
六冊	卅三錢
十二冊	六十錢

地方郵稅共	
一冊	八錢
六冊	四十五錢
十二冊	八十四錢

本紙は非常に愛顧を給ひて**第壹號**の**再版**及び**第二號**共に**賣切**に相成切角の御注文に反き申譯御座なく、第三號よりは、猶一層部數を增刊仕候間何卒引續き御愛讀奉願上候

文學界發送部

本校學年試驗結了に付。高等科、普通科、幼年科の各級共入學を許す、四月廿日迄に申込を乞ふ、
但し規則書を要する向は郵劵三錢寄送あれ、

東京市麴町區下
六番町六番地
明治女學校

雜誌及び書籍代金二十錢未滿は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割增の事

雜誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價

六冊	前金三十五錢	府外三十八錢
十三冊(半年)	同七十三錢	同七十八錢
廿六冊(一年)	同一圓三十錢	同一圓四十三錢
一冊	金六錢	郵稅金五厘

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰)	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。二十行以上二割引。
○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絕す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭くるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部注文を要し以上半頁每に十部增と定む。

發行所
東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

天賞堂諸物品調製之目的

凡そ時計指輪等金屬を以て調製する物品には單に實用目的のものあり裝飾目的のものあり實用目的の物品には敢て裝飾を要せざれとも裝飾目的の物品殊に携帶具に至りては裝飾たるに足るべき性質形狀を具備せざる可からず（例は時計の如き實用目的に限るとせは專ら機械の堅牢なるを選ひ其外側は銀或は銅にて可なりと雖とも裝飾目的に至りては內部の機械最良なるか上にも外側の金質製造等々精選すべきものなり）然るに世間往々此目的を混同するに由り或は廉價を主として調製粗惡に流れ啻に裝飾に適せざる而已ならず實用にも適せず却て其物品を携帶するか爲に名士の品位を劣し閨秀の艷麗を損することありとす（衣服家屋調度みな盡く然り其中にも携帶具に於て此事尤も多きは言を俟たず）是れ裝飾物品には其風韻雅致を備へ品質の精良と製作の巧妙を具するの必要あれはなり

弊堂夙に此に覺る所あるを以て實用品は專ら堅牢にして廉價なるを主とし裝飾品には第一に品質（即ち金銀寶石の品質を精良にし如何なる場合に於ても粗惡の品質を調製せす販賣せざるなり）第二に製作（即ち調製の初に於て卓絕の意匠家に謀りて形狀の新規高尙なるを擇ひ之を精妙なる工匠家彫刻家に囑附して製作せしめ以て美術の完備を專らとするなり）第三に時樣（即ち時々の流行に注意し我國交際社會の時好は勿論歐米文明諸國の流行にも着眼し其中にて風韻雅致に富めるものを擇ひ或は是に加ふるに我國の妙所を以てするなり）此三件を以て調製の目的とし猶中外愛顧諸君の爲に購求の便利を謀ると數年一日の如し弊堂か諸君の愛顧を得て今日の繁榮あるは實に之に由るを以て素より偶然に非さるなり是に於て弊堂は更に此目的を擴張し今般特に自から商品販賣店則を設け（賣品には都て正價を附し謹て之を遵恪して敢て違ふと無く諸君愛顧の恩に報ひんと期す諸君薔に倍して愛顧を垂れ賜は丶信に弊堂　慶幸なりと云爾

天賞堂主人　江澤金五郎謹白

明治廿五年一月一日

天賞堂商品販賣店則

品質と證明する事

時計（機械の中にて認め易き所に）鎖指輪帶留（貴婦人用）其他黃金の調製品には天賞堂の刻印を打ち弊堂の販賣品たる事を證し次に金性の刻印を打ち其純質の證幾許たるを證し凡そ黃金製品は金調製品は純金二十四を以て基とす故に二十と刻印する者には廿四の內にて純金二十雜物（銀若くは銅）四を含むの證なり十八十六十四の刻印みな此例なり由て此證符あるものは金性一目して瞭然なるを以て通貨に於けるも同樣なり次に番號の刻印を打ち調製原簿に證すべし（是は弊堂の原簿に一々以上の要領を記し購求者の氏名をも記し置くに付番號に照せば都て明瞭に何時にても知り得べし遺失盜難等の節は搜索するの便利是に若くは莫し）此證明は品質の確實なるを證明する爲なれば萬一其品質にして刻印に相違する物あらば弊堂乃ち其責に任し何時にても望に應して他の物品と交換し又は求に應して原價を還附すべし

製作と證明する事

鎖指輪帶留其他寶石寶玉貴金屬の裝飾美術品にして殊に我國に於て著名なる工匠家或は彫刻家に囑附して製作せしめたる巧妙の物品には前件刻印の外に其製作人の銘を打しむべし若し萬一其製作實銘たるの證據ある時は弊堂其責に任すると前件に同しかるべし

保存と請合ふ事

弊堂の刻印を打ちたる時計は其機械の組織に從ひ十ヶ年より三十ヶ年までの機械保存安全請合證書を附置べし若し此請合年限間に人爲の破毀又は外より來るの障害に非すして自然と機械に變化を生し使用に堪さる時は弊堂は新規の時計と交換するか但は原價を還附するか其望に應すべし

油注并に磨直の事

弊堂の刻印を打ちたる時計は前件の請合期限內は一回の油注并に磨直しは都て其需に應し決して別に代價を要求せさるべし其他鎖指輪帶留等の掃除磨直も亦是に准して代價を要求せさるべし

交換并に買戾の事

弊堂販賣物品は何品たりとも購求後もし其意に適はさる時は購求當日より時計は三十日他の諸品は一週間以內は（府外は相當の往復日數を加ふべし）凡そ其物品に破損毀傷なきに於ては何時にても需に應して他の物品と交換し又は原價にて買戾し聊かたりとも其爲に手數料若くは割引等を加へさるべし　但し特別の注文又は好みに依りて調製したる物品は此限に非す

巡回販賣の事

各地方の愛顧諸君より郵便を以て弊堂物品の調進を求めらる丶近時日々に其數を增加せり然るに書狀往復の注文にては多數の物品中に於て意に適するものを選擇すると能はさるは尤も顧主の不便たるを知り一兩年來弊堂の堂員に物品を提携して各地巡回せしめて之を試みたるに大に顧主の便利を見たるに由り漸次擴張の計を立て向後は每年一回若くは二回全國都會の市に向て必らず堂員を巡回せしむべし而して此巡回堂員は都て前件の店則に從ひ物品の交換は勿論油注及ひ磨直し（當堂の刻印を打ちたる時計は其料を要せす）をなすと本店同樣たるへし　但し此巡回堂員の氏名滯在日數巡回路順及各地宿所等は巡回に臨み豫め其地方の新聞を以て廣告し愛顧諸君の注意に供すべし

東京秀英舍市谷工場印刷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY